

Super
English
Language
High School

2

資料編

『英語で議論できる効果的な発信能力を育成するための
ステップアップ・プログラムの研究開発』

平成17年度（第2年次）

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール

研究開発実施報告書 広島市立舟入高等学校

CONTENTS

資料編

資料 1	シラバス		80
資料	1 - 1	1年 『オーラル・コミュニケーション』	80
資料	1 - 2	1年 『英語 』	82
資料	1 - 3	1年 『総合英語』	84
資料	1 - 4	2年 『英語 』	86
資料	1 - 5	2年 『英語表現』	88
資料	1 - 6	2年 『異文化理解』	90
資料	1 - 7	2年 『第二外国語（フランス語）』	92
資料	1 - 8	2年 『第二外国語（韓国・朝鮮語）』	94
資料	1 - 9	2年 『第二外国語（中国語）』	96
資料	1 - 10	3年 『英語理解』	98
資料	1 - 11	3年 『総合英語』	100
資料	1 - 12	3年 『コミュニケーション』	102
資料	1 - 13	3年 『通訳演習』	104
資料	1 - 14	3年 『時事英語』	106
資料	1 - 15	3年 『英語表現』	108
資料 2	SELHi 研究開発成果中間報告会の公開研究授業指導案		111
資料	2 - 1	公開授業の概略	111
資料	2 - 2	1年 『英語 』 栗原 誠	112
資料	2 - 3	1年 『英語 』 住田 恒三	114
資料	2 - 4	2年 『英語表現』 佐藤 将記 クレイグ・ネヴィット ナタリー・ヤンチャムナム	116
資料	2 - 5	2年 『異文化理解』 堂鼻 康晴	118
資料	2 - 6	3年 『リーディング』 栗栖 五代	120
資料	2 - 7	3年 『リーディング』 為西 正和	122
資料	2 - 8	1年 『OC 』 川本 由美 クレイグ・ネヴィット ナタリー・ヤンチャムナム	124
資料	2 - 9	1年 『総合英語』 大鴻 淳二	126
資料	2 - 10	2年 『英語 』 佐藤 将記	128
資料	2 - 11	2年 『英語 』 近藤 あゆみ	130
資料	2 - 12	3年 『コミュニケーション』 西 巖弘 横山 直子	132
資料 3	授業外活動の記録		134
資料	3 - 1	ユーロスカラシップ （アジア諸国の代表としてフランスのユーロ会議へ修学旅行）	134
資料	3 - 2	国際交流宿泊研修（英語キャンプ）	135
資料	3 - 3	広島市立高校生英語セミナー	136
資料	3 - 4	第8回舟入高等学校英語スピーチコンテスト	138
資料	3 - 5	SELHi 特別講演会 『ライティングが上達するためにはなにが大切か』 広島市立大学 副学長 青木信之 先生	140
資料 4	SELHi 研究開発における評価・測定の計画（第3案）		144
特別付録	モノログ・ペアワーク用の『ワード・カウンター』		うら表紙

資料1 1 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 住田恒三)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	オーラル・コミュニケーション	2	1年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを正しく理解した上で、自分の考えを伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
使用教科書・副教材等	ORAL COMMUNICATION EXPRESSWAYS Advanced Edition 及びワークブック(開隆堂)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson1 Lesson2	4	・英語を使ってコミュニケーションを図ることに慣れるとともに、基礎的な英語力を養うことを主目標とする。 ・定期的に英作文の課題を課し、自分の考えや意見を英語で表現する力を養う。	<u>毎時間の1分間モノログ活動を通じて、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。</u>	実施しない
		5			
	Lesson3 Lesson4 <u>ショウアンドテル</u> Lesson5	6	・英語を用いてのコミュニケーションをより積極的に行う態度の養成を図るとともに基礎的な英語力を養う。 ・英語のエッセイの構成、書き方について学習し、より適切な表現力を養う。		インタビューテスト
		7			
	【課題・提出物等】ジャーナル・ライティング、ショウアンドテル、プレゼンテーションの原稿等				
	【第1学期の評価方法】授業内での小テストやショウアンドテルなどの活動、ジャーナル・ライティングの課題・インタビューテスト等を総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson6 Lesson7 Lesson8	8	・単独あるいはペアやグループ内で身近な話題について話し合う中で、情報や他者の考えなどを理解した上で、自分の考えを的確に伝える能力を養う。 ・英作文の課題を課し、学習した単語・連語・構文・文法知識などの定着を図るとともに、自分の考えや意見が理解されるように、整理して表現する力を養う。 ・英語によるスピーチをする上で必要な構成や発表の仕方について学習する。	<u>毎時間の2分間モノログ活動を通じて、英語で自己を表現するためのトレーニング活動を行う。</u>	エッセイ・ライティング
		9			
	<u>スピーチ</u> Lesson9 Lesson10	10	インタビューテスト		
		11			
	12				
	【課題・提出物等】夏休みの課題としてのエッセイ、ジャーナル・ライティング、スピーチの原稿等				
	【第2学期の評価方法】定期考査、授業内での小テストやスピーチなどの活動、エッセイライティングの課題等を総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	カナダ語学研修に向けたカナダ・プロジェクト (自分自身や家族・友人、舟入高校、広島、日本の文化の紹介)	1	・1, 2学期に学習した内容を復習し、さらに発展させるための活動を行う。 ・身近な問題について良い点や悪い点、自分の意見を即興で述べられるようにする。 ・パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについての基礎知識のより一層の定着を図る。	300語程度のエッセイが書けるようになり、1分間で90語程度のスピーチができるようになる	インタビューテスト
		2			
		3			
【課題・提出物等】エッセイライティング、プレゼンテーションの原稿等					
【第3学期の評価方法】第3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。					

【年間の学習状況の評価法】各学期における定期考査、授業内での小テストやプレゼンテーションの内容、エッセイライティングの課題等を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	授業内では、まずは間違えることを恐れずに積極的に英語を話すことが重要である。授業で学習した重要表現や、自分が発表する予定になっているショウアンドテル、スピーチなどのプレゼンテーションの内容は意味を理解した上で何回も口に出して練習し、英文を見なくても言えるようにすることが大切である。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	英語で授業が行われるので、発言は英語で行う。理解できないことがある場合は積極的に質問をすること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりした内容について、積極的に自分の意見や考えを述べようとする。	定期考査、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を総合的に判断する。
表現の能力	身近な話題・場面・状況において、聞いたり、読んだりして得た情報に関して、自分の意見や考えを相手に理解されるように整理して表現することができる。	定期考査、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を評価する。スピーチでは1分間に90語程度、ディスカッションでは1分間に60語程度、英作文では300語程度を規準とする。
理解の能力	身近な話題・場面・状況において、英語を読んだり、聞いたりして、内容を正しく理解した上で、英語を正確に伝えることができる。	定期考査、エッセイノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を理解の能力の観点で、総合的に判断する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけ、様々な国の文化や身近な話題に関する人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。	定期考査、ジャーナルノートの提出状況、授業内でのスピーチやディスカッション、リスニングなどの活動への参加状況等を知識・理解の観点で、総合的に判断する。

3 担当者からのメッセージ

とにかく英語を声に出すことを心がけてください。少々間違いにはこだわらず、楽しみながら頑張りましょう。 Practice makes perfect!

資料1 2 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 住田恒三)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語I	3	1年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常的な話題について聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で表現したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
使用教科書・副教材等	使用教科書『PRO-VISION ENGLISH COURSE I』(桐原書店)個人学習ソフト(広島市立大学インプット学習プログラム)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Warm-up	4	高1における英語学習の確認と定着	辞書を引く	中間考查 lesson1,2
	Lesson 1 Boys and Girls, Be Courageous!	5	・ディスカッションを読み、人生の指針を考える ・音読する ・動詞の型/動詞の形/不定詞と動名詞	・音読活動を毎時間行なう (コーラス、リピート、シャドウ、パズ、ラウド、ウisper)	
	Lesson 2 The Nicest Present	6	・物語文を読んで、愛や思いやりについて考える ・ストーリーを作る ・分詞の形容詞用法/現在完了形/It is + 形容詞 + that	・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする	期末考查 lesson 3,4
	Lesson 3 We All Love Rice	7	・説明文を読み、食と異文化について考える ・ストーリーを作る ・関係代名詞/seem [appear] to ~ /SVC	・英問英答やリスニングを行う(個人学習ソフト300問)	
	Lesson 4 A Key to Open Our Hearts		・説明文を読み、ボランティアと人間について考える ・インタビューの内容を伝える ・関係代名詞what/SV(O)O		
<p>【課題・提出物等】 春課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。</p> <p>【第1学期の評価方法】 春課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、<u>1分間に120語の速さで音読できることを規準とする</u>)を加味して総合的に判断して評価する。</p>					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 5 Asako Lives on	8	・説明文を読み、命の尊さと家族愛について考える ・手紙の内容をまとめる ・助動詞 + 受け身/過去完了形/仮定法過去	音読活動を毎時間継続する (コーラス、リピート、シャドウ、パズ、ラウド、ウisper)	中間考查 lesson 5,6
	Lesson 6 We All Share This Earth	9	・説明文を読み、自然環境について考える ・短いスピーチを作る ・関係代名詞の非制限用法/現在完了形/関係副詞	・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする	
	Lesson 7 An Architect for the Environment	10	・説明文を読み、環境保護について考える ・スキットを作る ・動名詞/過去完了進行形	・英問英答やリスニングを行う(個人学習ソフト300問)	期末考查 lesson 7,8
	Lesson 8 Lessons from a Tomato Plant	11	・説明文を読み、能力と可能性について考える ・作文を書く ・SVOO(that節)/形式目的語のit/SVC(過去分詞)		
		12			
<p>【課題・提出物等】 夏課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。</p> <p>【第2学期の評価方法】 夏課題テストと中間・期末考查の定期考查に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、<u>1分間に120語の速さで音読できることを規準とする</u>)を加味して総合的に判断して評価する。</p>					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第3学期	Lesson 9 Where Is Santa Claus from?	1	・説明文を読み、歴史と文化について考える ・ストーリーを作る	音読活動を毎時間徹底する。 (コーラス、リピート、シャドウ、バズ、ラウド、ウisper) ・1分間に120語の速さで音読ができることを目標とする ・英問英答やリスニングを行う(個人学習ソフト200問)	学年末考査 lesson 9,10,11
	Lesson 10 A Mason-Dixon Memory	2	・関係副詞 - 非制限用法/助動詞 + have + 過去分詞 /SVOC(現在分詞)		
		3	・エッセイを読み、友情と共生について考える ・e-mailを書く ・分詞構文/不定詞/SVOC(原形不定詞)		
Lesson 11 To Make the Earth a Better Place to Live in		・説明文を読み、国際貢献と平和について考える ・写真を見て感想を述べる ・仮定法過去完了/recommend that ... + (should) 動詞の原形/強調構文			
[課題・提出物等] 冬課題やノート等の提出物は教科担当の指示に従って、指定された期日・場所に提出する。					
[第3学期の評価方法] 冬課題テストと中間・期末考査の定期考査に平常点(出席状況、授業中の態度、特に音読への参加状況、提出物の状況、授業中の小テストの得点等、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする)を加味して総合的に判断して評価する。					

[年間の学習状況の評価法]

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	・教科書の単語がすべて読み、単語・熟語の意味をすべて言えて、書けるようにする。 ・教科書の本文がスラスラ音読できて、文脈に沿って訳せるようにする。 ・教科書の問題が解けるようにする。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業中には必ずノートを取り授業内容を理解するように努める。 ・授業中に英語をリズムよく、たくさん声に出して音読する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションの関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	活動観察(音読、ペアワーク、発表) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
表現の能力	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	活動観察(音読、ペアワーク、発表、なお、音読活動は、1分間に120語の速さで音読できることを規準とする) ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
理解の能力	日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを英語で理解する。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック
知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	ペ - パーテスト、ワークシートチェック、作文チェック、ノートチェック

3 担当者からのメッセージ

中学の英語と違って、高校の英語はレベルが高くなるのはもちろん、学習内容が多くなり、授業のペースも速くなります。中学校と同じ勉強のやり方では、ついていけなくなってしまいます。高校の英語学習を軌道に乗せるために、次の3点に注意しよう。予習を習慣化する。英語を何度も聞き、何度も音読する。辞書を引く。

資料1 3 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 大鴻淳二)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	総合英語	2	1年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うと共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	『DUAL SCOPE ENGLISH GRAMMAR 27 STAGES』(数研出版) 『チャート式総合英語』(数研出版) 自主作成補助プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson1～3 文の要素と文型	4	DUALSCOPE総合英語を用いて解説し、英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。	CALL教室あるいはLL教室の特性を生かしてRecitation PracticeやPattern Practiceを取り入れ、数多くの発話練習(Oral Production)を行う	中間考查 Lesson 1～8 ・文の要素と文型 ・文の種類、時制 ・補助プリント
	Lesson5～8 文の種類、時制	5			
	Lesson9～11 助動詞	6	期末考查 Lesson 9～13 ・助動詞 ・動詞の態 ・補助プリント		
	Lesson12, 13 動詞の態	7			
【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に60語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 14～16 不定詞	9	DUALSCOPE総合英語を用いて解説し、英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。	Recitation Practice、Response Practice、ペアワーク等を行い、インプットされた知識をアウトプットに結びつける活動を継続していく	中間考查 Lesson 14～17 ・不定詞 ・動名詞 ・補助プリント
	Lesson17 EL1 動名詞	10			
	Lesson18～20 分詞	11			期末考查 Lesson 18～23 ・分詞 ・比較 ・関係詞 ・補助プリント
	Lesson21, 22 EL2 比較	12			
Lesson23 関係詞					
【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 定期考查、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。1分間に70語で暗誦できることを評価の規準とする。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	Lesson 24, 25 EL3 関係詞	1	DUALSCOPE総合英語を用いて解説し、英語の基礎・基本となる英文法を理解させ、習得させる。	<u>アウトプット面のトレーニングを継続する</u>	Lesson 24～27 ・関係詞 ・仮定法 ・補助プリント
	Lesson 26, 27 仮定法	2			
		3			
	【課題・提出物等】 ノートや課題は指定された日時に、指定された場所に提出する。				
	【第3学期の評価方法】 定期考査、提出物、小テスト。授業に対する関心・意欲・態度などを総合的に評価する。3学期末は1年間の総合評価とする。1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。				

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。欠課時数については1年間の時数を成績の評価の対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	総合英語の授業では英文法を系統立てて学習します。内容量も多いため予習が不可欠です。予習をすることで自分が分からないところが明確になり、授業を受けた後の授業内容における理解の度合いが全く違ってきます。また、授業中に分からなかった事は、その日の内に質問をし、解決することが大切です。
授業を受けるに当たってほしい事項	予習時の疑問点や不明な点を理解できるよう、集中して授業を受けてください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーション能力を高めようとしたか。間違えることを恐れず、自分の考えなどを表現しようとしたか。	・小テストや週末の課題及びノート提出状況によって評価する。
表現の能力	初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話したり、書くことができたか。	・考査問題に表現を問う問題を作成して評価する。 ・ <u>1分間に80語で暗誦できることを評価の規準とする。</u>
理解の能力	初歩的な英語の情報を正しく読み取ることができたか。	・定期考査の評価点で評価する。
知識・理解	言語や言語の運用についての基本的な知識、例えば、文の構造などについての知識を身につけたか。また、学習の中で取り扱われた文化について、例えば、物の見方や考え方などの違い、身近な生活・風俗習慣等を理解できたか。	・単語、発音、構文、文法を問う問題を設定して評価する。

3 担当者からのメッセージ

学習習慣の確立をし、主体的に学ぶ姿勢を身につけましょう。

資料1 4 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 佐々木百合子)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
外国語	英語	3	2年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばし、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。
使用教科書	教科書『CROWN English Series』三省堂

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Lesson 1 Looking at Things, East and West	4	・ものの見方における東西文化の違いの一考察を知る ・他国の文化を理解し、受け入れる ・「関係代名詞(非制限用法)」、「関係副詞(非制限用法)」、「形式目的語 it」を学ぶ	・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に130語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について120語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフト(広島市立大学の「インプット学習プログラム」)を使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく	中間考查 Lesson 1,2
	Lesson 2 Dreamtime - Australian Aborigines and the Art of Living -	5	・アボリジニのアートと彼らの置かれた過酷な歴史を知る ・民族の文化とアイデンティティーの関係について学ぶ ・「分詞構文(否定・受け身)」、「It ~ thatの構文」、「助動詞+受け身」を学ぶ		
	Lesson 3 Crossing the Border - Medecins sans Frontieres	6	・ボランティア活動とその意義を知る ・スピーチの形式を知る ・「S+V+C(C = whether節)」、「強調構文」、「過去完了進行形」、「不定詞+前置詞」を学ぶ		期末考查 Lesson 3,4
	Lesson 4 Outside the Box	7	・発想の転換について知る ・インタビューの形式を知る ・「前置詞+関係代名詞」、「不定詞の受け身」、「S+is+C(C = whether節)」を学ぶ		
【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第1学期の評価方法】 春課題テストや定期考査、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	Lesson 5 Mars - The Only Way Out ? -	8	・未知のものを科学的、論理的に分析する ・レポートの形式を知る ・「未来完了形」、「未来進行形」、「不定詞(結果)」を学ぶ	・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に135語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について150語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフトを使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく	中間考查 Lesson 5,6
	Lesson 6 Singlish Bad; English Good	9	・新聞の形式を知る ・シンガポールの言語事情を知る ・様々な英語について知る ・「倒置」、「譲歩」を学ぶ ・「比較級 + than + S + V」を復習する		
	Lesson 7 Wilderness in a Bottle	10	・動植物との共生を考える ・自分にできる環境保護運動について考える ・「仮定法現在」、「助動詞+完了形」、「助動詞 would の用法」を学ぶ		期末考查 Lesson 7,8
	Lesson 8 Zero Landmines	11	・地雷の被害とそれを取り除く活動に携わる人々を知る ・テレビ番組の形式に慣れる ・「分詞構文(完了形)」、「不定詞の完了形」、「受け身の進行形」を学ぶ		
【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。					
【第2学期の評価方法】 夏課題テストや定期考査、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	Lesson 9 Why Symmetry ?	1 2 3	・生物の進化の過程を知る ・地球外生命体の形状を考察する ・科学系書式の形式を知る ・「独立分詞構文」、「if 節のない仮定法」、「不定詞の意味上の主語」を学ぶ	・新出単語・語句の意味を確認し、CDやテープを使って音読練習をする ・1分間に140語の速さで音読ができることを目標とする ・教科書のQuestionなどを用いて英問英答をする ・リスニングやディクテーションを行う ・各単元終了後、本文で取り扱った題材について180語以上のエッセイを書く ・個人学習ソフトを使用して、「聞く」「読む」及び、「言語(文法)」の正確さと即時性を高めていく	学年末考查 Lesson 9,10
	Lesson 10 Letters to Superman		・生物の進化の過程を知る ・地球外生命体の形状を考察する ・科学系書式の形式を知る ・障害について知り、障害を持ちながら生きること考える ・手紙の形式を知る ・「seem to have ~」、「動名詞の意味上の主語」、「動名詞の受け身」を学ぶ		
	【課題・提出物等】 週末課題やノート等の提出物は教科担当者の指示により指定された期日・場所に提出する。				
【第3学期の評価方法】 冬課題テストや定期考查、小テストの結果、及びノート提出で評価を行う。					

【年間の学習状況の評価法】
年間を通した総合評価を行う。

確かな学力をつけるアドバイス	「継続は力なり」。テストや課題提出の直前になってあわてるのではなく、きちんと計画を立て、毎日コツコツと取り組むようにしてください。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・予習復習を必ずすること ・配布されたプリント等はファイル等に整理しておくこと

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	聞いたこと・読んだことを理解し、様々な情報や自分の考えを英語で用いて表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	定期考查、授業中の発表、小テストやノート提出状況等によって評価する。
表現の能力	幅広い話題について、情報や考えなど伝えたいことを整理して英語で話したり、書いたりして表現する。	定期考查、英問英答、エッセイ等によって評価する。
理解の能力	幅広い話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするのを整理して理解する。	定期考查、英問英答、リスニングによって評価する。
知識・理解	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考查、英問英答、エッセイ等によって評価する。

3 担当者からのメッセージ

1年次よりも英文の量が増え、内容が高度になります。付け焼き刃的な学習では対応できません。計画的に継続して学習するようにしてください。

資料 1 5 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 近藤あゆみ)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語表現	2	2年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける 相手によくわかるように英語を話し・書く。例えば、1文で終わるのではなく、例を示すなど、具体的な説明を加える。また、身につけている限られた英語力で、伝えたいことを表現するための工夫をする。工夫を施す上で、正しい英文を書くのに必要な語彙・文法・構文などに関する知識を身につけ、運用できるようにする。 論理的に意見を述べることができる 段落の展開など、構成に留意した文章を書くことができる 英語を話し・書く活動の背景なる文化や社会などについて関心と理解を深めた上で、自分の意見を持ち、それを的確に表現することができる
使用教科書・副教材等	<i>Impact ISSUES</i> (Longman) 基礎和英問題精講ライティング(旺文社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	・エッセイの書き方(1) ・ディスカッション(1) ・Peer Revision(1) ・即興スピーチ(1) ・ディスカッション(2) ・Peer Revision(2) ・エッセイの書き方(2) ・Peer Revision(3) ・ディスカッション(3)	4	・300語程度のエッセイを書くための基礎知識を学習する	・生徒の言語活動を活発にインストラクトする形でAETの位置づけに留意する ・毎時間、流暢さの向上を図るためのトレーニングを授業内に行う(通年)	インタビューテストとエッセイライティング 与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		5	・スピーキング能力の向上とコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度の育成を図る		
		6	・「話すこと」「書くこと」によって自分の考えや気持ちをより効果的に伝える力の育成。Peer Revisionでは、他の生徒の書いた英文に的確なコメントを加えることができるよう、読み手としての力量も高める		
		7	・自分の考えなどを整理して書くという言語活動		
			・即興でのスピーキング力の養成		
	【課題・提出物等】				
	<ol style="list-style-type: none"> Peer Revision(1)(2)(3)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる 				
	【第1学期の評価方法】				
	<ol style="list-style-type: none"> ディスカッションなど、インタラクティブな活動における積極性を評価する Peer Revision(1)(2)(3)それぞれのDraft 3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 定期考査におけるインタビューテスト(20点)、エッセイライティングのテスト(80点)、を評価する 即興スピーチを15点満点で評価する 				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	・パブリックスピーチ ・ディスカッション(4) ・Peer Revision(4) ・インフォーマル・ディベート(1) ・ディスカッション(5) ・Peer Revision(5) ・Show & Tell ・ディスカッション(6) ・Peer Revision(6) ・ロール・プレイング	8	・コミュニケーション活動としてのスピーチの実践。発表者として、また、聞き手としてのスピーチ活動の理解を深める	夏期休暇中の課題として、スピーチ原稿を完成させる 即興性を要求する活動としてインフォーマル・ディベートを位置づける プレゼンテーション方法についての工夫が求められる 即興性、より豊かな表現力を養成する活動としてロールプレイングを位置づける	インタビューテストとエッセイライティング 与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		9	・コミュニケーション活動としてのディベートの実践。論理的に意見構成する力、相手の発言を正確に聞き取る力、限られた時間内に意見をまとめ、発言する力の養成を図る。		
		10	・コミュニケーション活動としてのスピーキングにおける流暢さ、即時性を高める		
		11	・プレゼンテーション活動。自らが調べた事柄をいかに聞き手にわかりやすく、且つ、興味を引くよう伝えることができるか、その手法を研究し、効果的に実践する		
		12	・コミュニケーション活動としてのスキット。3,4人のグループで与えられたシチュエーションをもとに即興のスキットを演じる。伝えたいことをいかに、興味深く、効果的に伝えられるかについて考え、実践する		
	【課題・提出物等】				
	<ol style="list-style-type: none"> パブリックスピーチの原稿の提出 Peer Revision(4)(5)(6)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる 				
	【第2学期の評価方法】				
	<ol style="list-style-type: none"> プレゼンテーション、インフォーマル・ディベートにおける積極的な態度を評価する Peer Revision(4)(5)(6)それぞれのDraft3について、ESL Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 定期考査におけるインタビューテスト(20点満点)、エッセイライティングのテスト(80点)を評価する パブリックスピーチを20点満点で評価する 				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	・エッセイの書き方(3) ・ディスカッション(7) ・Peer Revision(7) ・グループ・プレゼンテーション ・インフォーマル・ディベート(2) ・ディスカッション(8) ・Peer Revision(8) ・即興スピーチ(2)	1	・ディスカッションを通してブレインストーミングを行い、自分でリサーチを加えつつ、論理的・客観的かつ説得力のある文章を書く力の育成を図る	・具体的な統計データなどを用いて説得力を持たせることを理解させる	与えられた4つの題材について、限られた時間内にエッセイを書く
		2	・グループごと、テーマにそったリサーチを行い、十分な調査・研究に基づいた、客観的で説得力のあるプレゼンテーションを行う活動。論理的なプレゼンテーションを構成し、聞き手にわかりやすく発表する力を問う	・論を深めるためのリサーチの重要性と発表に説得力を持たせるためのプレゼンテーションにおける工夫について考えさせる	
		3	・3学期は特に、「要約」の仕方に焦点を当てて、議論能力の向上を図る		
学期	[課題・提出物等]				
	1 Peer Revision(7)(8)において、それぞれDraft1～Draft3の提出 2 ディスカッションで扱う題材に関して、事前の読解、リサーチを求める予習プリントなどが随時課題として与えられる 3 グループプレゼンテーションのアウトラインにつきまとめ、提出する				
期	[第3学期の評価方法]				
	1 授業への積極的な参加。特に、インタラクティブな活動における積極性 2 Peer Revision(7)(8)それぞれのDraft3について、E S L Composition Profile 評価基準に基づき100点満点で評価する 3 考查では、エッセイライティングのテスト(100点満点)を評価する 4 即興スピーチを15点満点で評価する				

[年間の学習状況の評価法]

各学期での評価を総合的に判断し、年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	・読み手、聞き手が理解しやすく、かつ説得力を持った表現とはなにかを追究する。そうすることで論理的に文章を構成する力、説得力のある発言や発表の仕方が身につきます
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・提出物の提出期限を必ず守ること。特に、エッセイの提出が遅れるとPeer Revisionが機能しなくなるため年8回のエッセイは期日内に必ず提出しなければならない。 ・年間を通じて行う、流暢さを高めるトレーニングやディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの場面で積極性を発揮すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	身近な話題について、聞いたり、読んだりして得た情報やその話題についての自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう英語で表現しようとしている。 伝えたい内容を正確に表現するための工夫をしている。 エッセイを書いたり、ディスカッションしたりする際に必要となる、文化や社会の事柄についての関心と理解を深めようとする態度を持っている。	1 インタビューテストの評価点 2 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 3 定期考查の得点 4 授業中の様々な表現活動において、積極的であったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなど
表現の能力	自分の考えや感じたことなどを読み手や聞き手に理解されるよう、適切な英語で表現できている。 論理的な文章表現、スピーチの内容などに論理性があり説得力を持った発話ができている。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 インタビューテストの評価点 3 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 4 定期考查の得点 5 WSAテスト(「話す」力は1分間に70語の速さ、「書く」力は、即時性において1分間に25語を目標値とする) 6 授業中の様々な表現活動において、じっくり考えて発言できているか。また、主体性を持って判断しているかなど
理解の能力	エッセイライティングやスピーチ、ディスカッションなどの活動において、効果的な資料の提示や客観的で説得力のある内容のものが構成されているか。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 3 定期考查の得点 4 WSAテスト(「話す」「書く」の表現において、語法・構文力・構成の技量を得点化する) 5 授業中のプレゼンテーション、インフォーマルディベートやディスカッションにおいて、資料活用の有効性や表現の適切さなど
言語や文化についての知識・理解	正しい英文を書き、話すのに必要な語彙・文法・構文・文章の構成に関する知識を身につけている。 エッセイライティングにおいて、段落の展開、あるいは段落ごとのつながりに留意した英文を書くことができる。 外国の事情や自国の事情、異文化を理解するための背景知識を持っている。	1 年8回提出するエッセイの評価点 2 インタビューテストの評価点 3 パブリックスピーチ、および即興スピーチの評価点 4 定期考查の得点 (実用英語検定試験2級程度の文法知識を身につけることを目標とする)

3 担当者からのメッセージ

客観的に物事を判断し、考え、そして自分の考えを論理性を持たせて表現できるようになることを目標としています。そのためには、400語程度の英文を書くことに早く慣れること。また、正しく、流暢に英語を話せるようになりたいという強い気持ちを持ち続けることが大切です。

資料1 6 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 栗栖五代)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	異文化理解	2	2年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)幅広い題材の教材を使用して、多様な話題に関する人々のものの見方や考え方の違いを理解する。 (2)コンピュータやLLなどを利用することにより、英語の音声的な特徴を習得する。 (3)積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	(1)英語リピーティング入門(アルク) (2)Pronunciation Power CD (Blackstone Multimedia Corporation) (3)個人学習ソフト(『広島市立大学インプット学習プログラム』) (4)自主作成教材

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	(1)英語リピーティング入門 Part-1 (2)Pronunciation Power (3)個人学習ソフト (4)ペアワーク	4	(1)ストレス・リズム・イントネーションなどに焦点を当て各ユニットのリピーティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、一分間に140語の速さで正確に再現できるようになる。	スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う	期末考查
		5	(2)個々の母音・子音を発音する際の口や舌の形・動き・位置等を習得する。		
		6	(3)市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		7	(4)身近な会話のトピックでペアで聞き合っ、内容を報告できる。		
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する。					
【第1学期の評価方法】 定期考查、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	(1)英語リピーティング入門 Part-2 (2)Pronunciation Power (3)個人学習ソフト (4)漫画	9	(1)喜怒哀楽の感情表現はじめとして会話における効果的な話し方に焦点を当て、各ユニットのリピーティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、さらにプラスワウンドアログを発表させ、一分間に145語の速さで正確に再現し発表できるようになる。	(1)スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う。 (2)総仕上げとして自作のペアワークをビデオ撮影し相互評価する。	期末考查
		10	(2)連結・同化・短縮形・脱落等の音変化プロセスを理解し、習得する。		
		11	(3)市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		12	(4)異文化を扱った漫画を英語で説明できる。		
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する。					
【第2学期の評価方法】 定期考查、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第 3 学 期	(1)英語リピーティング入門 Part-3 (2)個人学習ソフト	1	(1)アメリカ大統領の演説を取り上げ、より実践的なスピーチを目指して、リピ・ティング・シャドウイング・オーバーラッピングを行い、一分間に150語の速さで正確に再現し発表できるようになる。	(1)スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎時間行う。 (2)総仕上げとして個々の演説を全体で発表又はビデオ撮影し相互評価する。	期末考査
		2	(2)市立大学の個人学習ソフトを通じてリスニングの力を高める		
		3			
【課題・提出物等】 教科書の英文スクリプトCDを家庭でも活用する					
【第3学期の評価方法】 定期考査、授業内でのペアワークなどの活動等を総合的に評価する。					

【年間の学習状況の評価法】
各学期の評価項目を1年間の評価項目として総合的に評価する。

確かな学力をつけるアドバイス	発声することへの恥ずかしさや間違えることに対する抵抗をなくする。CALL教室やLL教室の特性を生かして、大きな声で正確なトレーニング活動を行う。ペアワーク活動時には相互に良い点・問題点を言い合い、高めあう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	授業中に与えられる各自の活動時間の中で、できるだけたくさんのトレーニング活動を行おうとする姿勢と意欲を持つ。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	相手の話を関心を持って聞き、積極的にコミュニケーションしようとする。言語活動を通して異文化への関心と理解を深めようとする。	定期考査、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
表現の能力	正しい音声で話すことができる。幅広い話題・場面・状況において、自分の考えや意見、感情などを流暢かつ正確に表現することができる。	定期考査、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
理解の能力	幅広い話題に関する英文を聞いて、情報や話し手の意向などを正確に理解できる。話された質問、指示、依頼などに対して適切に応じることができる	定期考査、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する
知識・理解	英語の音声的な特徴を理解している。様々な国の文化や幅広い話題に関する人々のものの見方や考え方の違いについて理解している	定期考査、インプット学習プログラムの正答率と解答時間、また、授業内でのトレーニング活動(単独・ペア・全体)をモニターすることなどを通じて総合的に判断する

3 担当者からのメッセージ

ヘッドセットをついたら、自分だけの世界で集中し、正確に聞き取り、積極的に発声しましょう。同時に、なりきり度を高め、感情を込めた表現をしてください。このような練習することを通じて、確かな英語運用能力の基礎を築くことができます。

資料1 7 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
国際理解	第二外国語(フランス語)	2	2年	国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1) フランス語の基礎を学び、発音とつづり字の読み方を習得する。 (2) 口語表現を理解し、簡単な日常会話の習得を目指す。 (3) 外国語でのコミュニケーション能力を高めることで、積極性を培う。 (4) フランス及びヨーロッパの社会や文化への理解を図る。
使用教科書・副教材等	(1) フランス語21(白水社) (2) フランス語へのパスポート(白水社)(参考書として適宜使用) (3) パスポート初級仏和辞典(白水社) (4) 自主作成プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	(1) フランス語21 Part 1 Unit 1~4 (2) フランス語へのパスポート (3) 自主作成プリント		(1) フランス語の発音とつづり字の読み方の概要を学ぶ。 (2) 数字0から2000まで習得し、話し聞き取れるようにする。 (3) 自己紹介と他者について語る表現を習得し、話し聞き取れるようにする。 (4) 総合テストを行い、学習内容の習得の一層の定着を図る。	ゲーム形式でグループあるいはペアでの会話を毎時間行う。	期末考查
	【課題・提出物等】 教科書付属のCDを家庭でも活用する。				
	【第1学期の評価方法】 定期考查、授業内での小テスト、授業への参加度などを総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	(1) フランス語21 Part 2 Unit 1~3 (2) フランス語へのパスポート (3) 自主作成プリント		(1) 時刻の表現を学び、自分の生活のしかたを話せるようにする。 (2) 相手・第三者の生活のしかたについて質問し、聞き取れるようにする。 (3) 基本となる30の動詞の活用を学ぶ。 (4) 総合テストを行い、学習内容の習得の一層の定着を図る。	ゲーム形式でグループあるいはペアでの会話を毎時間行う。	期末考查
	【課題・提出物等】 教科書付属のCDを家庭でも活用する。				
	【第2学期の評価方法】 定期考查、授業内での小テスト、授業への参加度などを総合的に評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	(1) フランス語 21 Part 3 Unit 1~2 (2) フランス語へのパ スポート (3) 自主作成プリント		(1) 基本となる10個の前置詞を習得し、空間的に位置付けながら語る表現を学ぶ。 (2) 道順を尋ね、教える表現を学ぶ。 (3) 一年間の学習事項の再確認をする。	ゲーム形式でグループあるいはペアでの会話を毎時間行う。	期末考查
	【課題・提出物等】 教科書付属のCDを家庭でも活用する。				
	【第3学期の評価方法】 定期考查、授業内での小テスト、授業への参加度などを総合的に評価する。				

【年間の学習状況の評価法】

各学期の評価項目を一年間の評価として総合的に判断する。

確かな学力をつけるアドバイス	実際に自分で発話することが会話表現を習得する最良の方法である。間違えることを恐れずコミュニケーションを取る姿勢を示すことが重要である。
授業を受けるに 当って守ってほ しい事項	ペア・グループワークに積極的に参加し、スピーキングやリスニングの機会をできるだけ多く作ることを心がける。分からないことはためらわずに質問し、理解する意欲を持つ。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	授業に集中し、知らないことや分からないことを恐れず積極的に授業に参加しようとする。	授業内でのトレーニング活動、定期考查、小テストを通じ総合的に判断する。
表現の能力	正しい発音で、自分や第三者について情報を与え、日常生活について描写することができる。	授業内でのトレーニング活動、定期考查、小テストを通じ総合的に判断する。
理解の能力	聞いたことをベースに推測し、自分なりの仮説を立て、適切に反応することができる。	授業内でのトレーニング活動、定期考查、小テストを通じ総合的に判断する。
知識・理解	フランス語の音声的な特徴を理解している。	授業内でのトレーニング活動、宿題、定期考查、小テストを通じ総合的に判断する。

3 担当者からのメッセージ

フランス語の発音やつづり字の読み方は最初はむずかしく感じるかも知れませんが、一度法則を習得すれば、初めて目にする単語も発音できるようになります。間違えることを恐れず、聞き話すことを楽しむ気持ちで授業にのぞんで下さい。

資料1 8 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
国際理解	第二外国語 (韓国・朝鮮語)	2	2年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)韓国・朝鮮語を読み、書き、聞き、話す、基礎能力を伸ばす。 (2)韓国・朝鮮文化に対する興味・関心を育成する。 (3)ハングル検定5級の合格基準を目指す。
使用教科書・副教材等	教科書:(1)『基礎から学ぶ韓国語講座』(国書刊行会) (2)自主作成教材 (3)韓国文化に触れる活動。

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	(1)基礎から学ぶ韓国語講座(国書刊行会):基礎第1~6課 (2)絵カードを読む (3)料理を作る	4 5 6 7	(1)韓国・朝鮮語の文字の仕組み、発音の仕方を理解する。自己紹介ができる。 (2)単語が読めるようになる。 (3)韓国・朝鮮の食文化に触れてみる。	発音や文法の面で、日本語との類似点や相違点を念頭に置きながら、韓国・朝鮮語の理解する努力をする。	期末考查
	[課題・提出物等] 教科書に付属のCDを家庭で聞き、予習・復習に活用する。				
	[第1学期の評価方法] 定期考查・平常点				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	(1)基礎から学ぶ韓国語講座(国書刊行会):基礎第7~15課 (2)絵カードを活用 (3)韓国映画鑑賞	8 9 10 11 12	(1)韓国・朝鮮語の数字の読み方を覚える。丁寧語、敬語、過去形を日本語と比較しながら理解する。 (2)絵を見て意味を韓国・朝鮮語で言える。 (3)映画を鑑賞し、生活文化に触れてみる。	アラビア数字で書いてあっても場合によって読み方が変化することに注意する。	期末考查
	[課題・提出物等] 教科書に付属のCDを家庭で聞き、予習・復習に活用する。				
	[第2学期の評価方法] 定期考查・平常点				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	(1)基礎から学ぶ韓国語講座(国書刊行会):基礎第16～20課 (2)絵カードでゲーム (3)韓国の伝統的な衣装と遊び	1 2 3	(1)韓国・朝鮮語の動詞形容詞の不規則的な変化がわかり、滑らかな表現を身に着ける。 (2)読み方の練習を兼ねたゲームを楽しむ。 (3)韓国の伝統的な衣装や遊びで韓国の正月を味わう。	より韓国・朝鮮語らしい表現をするために、先生やCDの発音やイントネーションを積極的に真似る。	学年末考查
	【課題・提出物等】 教科書に付属のCDを家庭で聞き、予習・復習に活用する。				
	【第3学期の評価方法】 定期考查・平常点				

【年間の学習状況の評価法】

各学期の評価項目を1年間の評価項目として総合的に評価する。

確かな学力をつけるアドバイス	・各人が自分の興味に合わせて何らかの契機を見つけ、韓国・朝鮮の文化に興味を持ち、言葉を書いたり口に出したりして、繰り返し練習する。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・大きな声で発音の練習をする。恥ずかしいと思わない。外国語の発声は日本語と違うのは当たり前。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・先生やクラスの話に関心を持ち、疑問が生じたら質問をする。	・定期考查・授業内での総合的判断
表現の能力	・正しい発音で話すことができる。積極的に韓国・朝鮮語での挨拶や会話を試みる。	・定期考查・授業内での総合的判断
理解の能力	・テキストの内容や先生の話に、適切に応じることができる。	・定期考查・授業内での総合的判断
知識・理解	・日本語と違う韓国・朝鮮語の発音や文法を理解し、また文化の違いを理解するよう努力する。	・定期考查・授業内での総合的判断

3 担当者からのメッセージ

韓国語は日本語と文法的に似ていて学習しやすいイメージがありますが、実際に習ってみると日本語にはない文法的な変化が多く、戸惑う人もいます。しかし、基本的なルールさえきちんと押さえておけば、他の外国語と比べて理解しやすいことも確かです。自らが少し努力しさえすれば、授業が楽しくなることは間違いありません。

資料1 9 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
国際理解	第二外国語(中国語)	2	2年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	1年間の勉強を通して、簡単な中国語会話、中国語文法ができる。
使用教科書・副教材等	中国語はじめの一步(白水社)、中国語入門(NHK出版)、 図解中国語会話(洋版出版)、プリントなど

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	・中国語の発音の特徴及び中国語文法 ・簡単な日常会話 ・自主作成プリント	4	中国語の発音の基礎	・中国語の会話や文法などの向上などを図る活動を毎時間行う。	期末考查
		5	ピンインのまとめ、名詞述語文(～是～)「的」の用法		
		6	「主語+述語」の表現及び疑問文の表現		
		7	疑問文の表現		
	【課題・提出物等】 作成プリントの練習				
	【第1学期の評価方法】 成績(70%)+出席率(10%)+プリントの練習(20%)				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	中国語文法の種々の表現 自主作成プリント	8	1学期の復習	中国語の会話、文法、作文などの向上を図る活動を毎時間行う。	期末考查
		9	形容詞の文の表現及び「所有」「存在」の表現		
		10	年月日の表し方、完了を表す「了」の使い方など		
		11	経験を表す「～过」の使い方、動作の程度を言う表現など		
		12	可能動詞の表現など		
	【課題・提出物等】 プリント				
	【第2学期の評価方法】 成績(70%)+出席率(10%)+プリントの練習(20%)				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考査範囲
第 3 学 期	単語を使って簡単な日常会話が話せること及び種々の表現	1	まとめ及び動作の表現	中国語の会話, 文法, 作文などの向上を図る活動を毎時間行う。	学年末考査
		2	比較及び類似の表現		
		3	動詞の連動式の表現		
【課題・提出物等】 プリント					
【第3学期の評価方法】 成績(70%) + 出席率(10%) + プリントの練習(20%)					

【年間の学習状況の評価法】
各学期の評価項目を1年間の評価項目として総合的に評価する。

確かな学力をつけるアドバイス	授業で習ったことを忘れないために、必ずその日のうちに復習する。また、時間に余裕があれば、次の学習する言葉の語彙と文法を見ておく。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	根気よく続けてほしい。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	授業を通して、中国のいろいろな知識、中国文化に関心と理解を深めようとする。	定期考査, 授業内での正答率などを通じて総合的に判断する。
思考・判断	中国語の勉強を通して、中国語の文法、中国人の考え方を理解することができる。	定期考査, 授業内での正答率などを通じて総合的に判断する。
資料活用 の技能・表現	いろいろな場面、資料を通して正確的に中国語を表現することができる。	定期考査, 授業内での正答率などを通じて総合的に判断する。
知識・理解	幅広い話題を通して、中国文化を深く理解する。	定期考査, 授業内での正答率などを通じて総合的に判断する。

3 担当者からのメッセージ

教室の中だけが学習の場ではない。学んだ中国語を使って、積極的に話しかけてみてください。

資料1 10 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 佐藤将記)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語理解	3	3年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語を通して情報や相手の意向などを理解する能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を身につける。
使用教科書・副教材等	教科書:『現代を探る』桐原書店 副教材:『PERSPECTIVE Total Reading 20』山口書店 『基礎英文問題精講』旺文社

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	『PERSPECTIVE』 Lesson 2, 8~20	4	英語の重要表現を正しく理解し、用いることができるような技能を身につけ、それを英文読解力の向上に結びつける。また、単に英文を読んで何が書いてあるかを理解するだけでなく、理解していることを日本語や英語で表現できることを目指す。	学期に5時間程度、『基礎英文問題精講』を教材として、構文理解、定着のための授業を行う。 毎時間、単語・語法の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	中間考查 Lesson 2, 8, 9, 10, 11,12 期末考查 Lesson 13 ~ Lesson 20
		5			
		6			
7					
【課題・提出物等】 随時、読解力養成のための週課題を課す。					
【第1学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業態度をもとに総合的に評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	『現代を探る』 Unit 1 ~ Unit 12	8	個々の英文、段落の間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し、英文を的確に理解する。また、理解したことを的確に日本語や英語で表現できるようにする。	毎時間、単語・語法の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	中間考查 Unit 1 ~ Unit 6 期末考查 Unit 7 ~ Unit 12
		9			
		10			
11					
【課題・提出物等】 随時、読解力養成のための週課題を課す。					
【第2学期の評価方法】 定期考查、課題テスト、小テストの結果、課題の提出状況、および授業態度をもとに総合的に評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	『現代を探る』 Unit 13 ~ Unit 20	1	個々の英文、段落の間の関係を理解し、英文の論理構造についての感覚を磨き、さらには多様なテーマについての知識を吸収し英文を的確に理解する。また、理解したことを的確に日本語や英語で表現できるようにする。	毎時間、単語・語法の確認テストを実施する。 音読など、音声面に留意した指導を行う。	Unit 13 ~ Unit 20
		2			
		3			
【課題・提出物等】					
【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通した評価を行う。					

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じて実践力をつけること。十分に準備をして定期考査や小テストにのぞむこと。 ・わからないところを放っておかず、質問するなどして自ら解決するための努力を施すこと。 ・学習した内容を何度も復習(読み返し)することで読解力を確かなものにすること。
授業を受けるに当って守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に英文を読み、設問を解くこと。 ・提出物の期限を厳守する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	関心・意欲を持って、書き手の意向などを理解しようとしているか。未知の語を推測したり、背景知識を活用したりしながら積極的に読もうとしているか。	小テストへの取り組み、課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断して評価する。
表現の能力	ポイントになる語句や文、段落の構成・展開などに注意して音読できるか。学習した構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書くことができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査のライティングの評価点。 ・授業中の音読でのパフォーマンス。 <u>1分間に160語の速さで音読ができることを規準とする。</u>
理解の能力	書かれている内容を適切に読みとり、必要な情報を得たり、内容についての質問などに適切に応じることができるか。	定期考査のリーディングの評価点。
知識・理解	言語やその運用について、正しい知識を身につけているか。様々な国の文化や、身近な話題に関する人々のものの見方や考え方などの違いについて深く理解しているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

年間を通じての積極的な取り組みを期待する。

資料1 1.1 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 佐藤将記)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	総合英語	2	3年	普通科・国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	情報や相手の意向などを理解し、情報や考えなどを英語で伝える能力を伸ばすとともに、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
使用教科書・副教材等	『CLOVER 英文法・語法ランダム演習 入試標準』(数研出版) 個人学習ソフト(『広島市立大学インプット学習プログラム』)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	『CLOVER 英文法・語法ランダム演習 入試標準』 Lesson 1 ~ Lesson 7	4	英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する。 学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする。 自分の考えなどを整理して、論理的で、正確で、適切な英語で表現する。	定期的に80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗誦することを徹底する。</u>	中間考查 Lesson 1 ~ Lesson 3 期末考查 Lesson 4 ~ Lesson 7
		5			
		6			
7					
	【課題・提出物等】	学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。 授業においては日常的に、日本語を英訳する力のトレーニングとしてレシテーションを行う。			
	【第1学期の評価方法】	定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。			

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	『CLOVER 英文法・語法ランダム演習 入試標準』 Lesson 8 ~ Lesson 15	8	英語で表現する、あるいは英語を理解するための基礎となる知識を改めて整理する。 学習した連語・構文・文法知識などを活用して、正確な英文を書けるように、また、英文を的確に理解できるようにする。 自分の考えなどを整理して、論理的で、正確で、適切な英語で表現する。	定期的に80～100語程度で自分の考えを表現する活動を行う。 <u>基本例文については暗誦することを徹底する。</u>	中間考查 Lesson 8 ~ Lesson 11 期末考查 Lesson 12 ~ Lesson 15
		9			
		10			
11					
	【課題・提出物等】	学期に数回、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。			
	【第2学期の評価方法】	定期考查、英作文などの課題の提出状況、および授業に対する態度をもとに総合的に評価を行う。 授業においては日常的に、日本語を英訳する力のトレーニングとしてレシテーションを行う。			

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	『CLOVER 英文法・ 語法ランダム演習 入試標準』 1年間のまとめ	1	学習した連語・構文・文法知識などを活用して、 正確な英文を書けるように、また、英文を的確 に理解できるようにする。	個人学習ソフトを 用いて自学自習 を行う。 定期的に、80～ 100語程度で自分 の考えを表現する 活動を行う。	与えられた テーマに関 して、100～ 120語程度 の英文で意 見論述する。
		2			
		3			
【課題・提出物等】 授業ノート、及び、80～100語程度で自分の考えを英語で表現したものを提出する。					
【第3学期の評価方法】 3学期だけの評価は行わず、年間を通じた評価を行う。					

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつ けるアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切に受け、十分に準備をして定期考査等へのぞむこと。 ・わからないところを放っておかず、必ず質問するなどして解決すること。 ・計画的に課題に取り組み、学習した内容をすぐに復習すること。
授業を受けるに 当って守ってほし い事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を確実に理解するよう努める。 ・提出物の期限を厳守する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	語彙、文法、文構造などに関心を抱き、学習した内容を活用して、積極的に自分の考えを表現しようとする態度を持っているか。	課題の提出状況、授業への参加状況などを総合的に判断し評価する。
表現の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、正確な英文を書くことができるか。	定期考査の評価点、及び、英作文の課題を評価する。 <u>1分間に100語の速さで暗誦ができることを規準とする。</u>
理解の能力	学習した、語彙、文法、文構造などの知識を活用して、的確に英文を理解することができるか。	定期考査の評価点で評価する。
知識・理解	語彙、文法、文構造などの言語知識を身につけているか。	定期考査、課題などにおいて、総合的に評価する。

3 担当者からのメッセージ

年間を通じての積極的な取り組みを期待します。

資料1 12 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 西巖弘)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	コミュニケーション	1	3年	普通科国際コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	英語によるコミュニケーション能力の伸長を主眼として、現代の社会問題を題材として用いる。とくに議論において、論点を的確に把握し、自らの意見を論理的かつ適切に表現する能力を身につけるとともに、問題解決への方途を探索すべく互いの意志疎通と協議を活発に行おうとする積極的態度を養う。
使用教科書・副教材等	Debating the Issues (Macmillan Languagehouse)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	Warm-up	4	授業で用いる基本的な表現の確認と定着。	英語のみ使用可 音読を徹底する	中間考查
	アナウンス・リーディング	5	英語第二公用語論、グローバル化、結婚観などをテーマとする。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	
	レシテーション・スピーチ	6	資料読み、情報収集、簡易ディベート、ディスカッションを行い、テーマに関する意識を深め、議論するためのコミュニケーション能力を向上する。	・テーマごとに300~500語の英文レポートを課す	期末考查
	プレゼンテーション	7	ディベートの意義と方法を学ぶとともに、トーキングマッチなどを通して、議論に必要な流暢さと論理性を養う。		
	「ディベート」				
【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第1学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	「ディベート」	8	ディベートにおけるジャッジの方法を学ぶとともに、ディベートの試合を実践し、議論での流暢さと論理性を向上する。	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	中間考查
	「ディスカッション」	9			期末考查
		10	・グループごとに研究テーマを設定し、調査・資料作りをとおして情報収集・論理的な表現方法を学ぶ ・研究内容のプレゼンテーションとディスカッションを行い、議論での流暢さと論理性を向上する	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	
		11			
	12				
【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)					
【第2学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	「効果的なコミュニケーションとは」	1	・ディベートやディスカッションなどで効果的な議論をするために必要なことは何かを学ぶ ・コミュニケーション学の視点から、効果的なコミュニケーションの技法は何かを学ぶ	・スピーキングの流暢さの向上を図る活動を毎回行う	学年末考查
		2			
		3			
	【課題・提出物等】 (1) 英文レポート (2) ワークシート(授業中に配布して使用) (3) カセットテープ(音読やスピーチを提出)				
	【第3学期の評価方法】 (1) 定期考查(50%) (2) コミュニケーション活動への参加度・ワークシート(25%) (3) 英文レポートなどの課題(25%)				

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して5段階で年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	・自分の考えを英語で声に出すスピーキングの練習を毎日行う ・授業で確認した英文・表現や教科書の英文・語彙などは、音読の練習を毎日行う
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業中のコミュニケーションはすべて英語で行う ・課題の提出期限は厳守する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	コミュニケーション活動への参加度、ワークシート・英文レポートなどの課題の提出状況
表現の能力	身近な問題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のライティングとスピーキングの評価点 ・英文レポートなどの提出物 ・WSAテスト(「話す」は1分間に7.5語、「書く」は1.5語の流暢さを規準とする)
理解の能力	身近な問題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするを英語で理解する。	・授業中のコミュニケーション活動でのパフォーマンス ・定期考查のリーディングとリスニングの評価点
知識・理解	身近な問題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	ワークシート・英文レポートなどの課題の完成度

3 担当者からのメッセージ

2年生から継続して、情報や自分の考えを論理的に表現できることを重視します。さらに、これらを流暢に発信できるよう努力していきます。

授業では、発信能力を養うきっかけとなる活動を行いますが、本当のスピーキング能力をつけるには、ライティングなどと同じく家庭での習慣(いわゆる秘密練習)が欠かせません。当然こういった練習は大学入試にも十分に役立ちます(例、「話せる」=「聞ける」)ので、続けるとなると苦勞も多いですが、これに負けず是非ともやり遂げて欲しい。ともに頑張りましょう。

資料1 13 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 堂鼻康晴)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	通訳演習	2	3年	普通科国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	(1)通訳者養成トレーニングを通じて、英語の4技能をさらに伸長させる。 (2)口答英文解釈および口答和文英訳訓練を通じて、場面に応じた即興表現力を伸長させる。 (3)ボランティア通訳検定A級の資格が取得できるだけの基礎的通訳能力を習得させる。
使用教科書・副教材等	・柴田バネッサ、『はじめてのウイスパリング同時通訳』 南雲堂 ・自作プリント

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・パワーアップ リピーティング 単語クイック・レスポンス セグメント判断 数字クイック・レスポンス シャドーイング 頭ごなし訳のテクニック 頭ごなし訳のテクニック サイト・トランスレーション リテンション練習 	4	・速聴訓練の一環として音読速度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 音読速度の測定にはCALL設置の「Speed Reader」を用いる。 単語および数字の即応練習にはCALL設置の「Quick Response」を用いる。 	期末考查
		5	・くり返して聞き、くり返して音声化することによって瞬時に訳出できるまで語句や表現を定着させる。 ・即時反応訓練により正確で自然な訳出の基礎となる語彙増強を図る。		
		6	・英語の語順でセンテンスを理解する練習により、英語による発想法を習熟させる。 ・長い文章を訳出する際必要となる短期記憶能力を高める。		
		7			
【課題・提出物等】					
<ul style="list-style-type: none"> 各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 音読課題文を録音したメディアの提出。 					
【第1学期の評価方法】					
授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行なう。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> 内容先取りの戦略 予測の戦略 リピーティング 同時サイトトランスレーション 文脈からの推測 通訳メモ練習 要約通訳 ウイスパリング同時通訳 リライト練習 センテンス逐次通訳 	8	・副詞や相関語句を利用した予測ルールの再確認を行なうことによって、文章の流れを自然に予測する能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> サイトラにより即時的理解力を養成する。 メモはあくまでも短気記憶の補助であり、メモ取り作業に固執しないよう注意。 	期末考查
		9	・通訳用スラッシュリーディングの練習は同時通訳の基礎となる。		
		10	・メモ取り練習によって、まとまった情報の主旨を、時間を掛けないで把握することが可能になる。		
		11	・一つの文章を意識してニュアンスの違いを表現する技法を学習する。		
		12	・短文通訳の練習は逐次通訳の基本となる。		
【課題・提出物等】					
<ul style="list-style-type: none"> 各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 音読課題文を録音したメディアの提出。 					
【第2学期の評価方法】					
授業への積極的参加度、提出課題やパフォーマンスの評価点、および確認テストと定期考查の結果で評価を行う。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第3学期	・リプロダクション ・短いパラグラフ逐次通訳 ・ワンセンテンス遅れの通訳練習 ・簡単な同時通訳	1	・リスニング、リテンション、構文組立、表現力、デリバリーの総合練習を通じて、自分の言葉で表現する技能を高める。	・100 - 200語のパスセージを70%以上訳出できることを目標とする。 ・100%出来なくても、出来るところから上手くつないでスピーチを完成させる。	期末考查
		2	・記憶を整理しながら情報を保持する練習を行なう。		
		3	・直聴直解したものを口答訳出することによって即時的表現力を総合的に高める。		
	【課題・提出物等】 ・各課の日英通訳練習課題文の暗唱。 ・音読課題文を録音したメディアの提出。				
	【第3学期の評価方法】 第3学期だけの評価は行わず、年間を通じた評価を行う。				

【年間の学習状況の評価法】

各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつけるアドバイス	「自分の音読スピードと同じスピードで読まれた、または発表されたスピーチ内容は理解できる。」ことを基本コンセプトとして、日本語、英語を問わず文章をひたすら音読(音速読)することを奨励する。また日常生活における事象を英語で描写しようとするなど、間違いを恐れず絶えず英語表現力の活性化に努めてもらいたい。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	家庭学習においても付属の音声教材を活用して通訳トレーニングを実践するなど、復習や反復訓練を重視すること。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	間違いを恐れず自分の考えなどを表現している。 自分の知っている語句や表現で言い換えるなど工夫をしながら自分の考えを相手に伝えようと努力している。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・授業中の様々な表現活動において、積極的であったか、発言が論理的で説得力のあるものであったかなどを評価の対象とする。
表現の能力	意図や気持ちを的確に伝えるために場面や状況に応じて適切な抑揚、リズム、声の大きさ、スピードで伝えることができる。 場面や目的に応じて、情報や概要を整理して正確に伝えることができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。 ・WSAテスト(Speakingセクション)の評価点。
理解の能力	<u>長い日常会話と英文250語程度(語彙1300語レベル)を150w/mで聞き、70%以上理解できる。</u> まとまりのある文章を適切なスピードで読み、内容を理解することができる。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。
知識・理解	パブリックスピーキングの活動に必要な構成・文法・語彙・効果的な発表の仕方などについてくわしい知識がある。	・授業中に実施する確認テストの得点。 ・定期考查(筆答試験および口答試験)の得点。 ・各種パフォーマンスでの評価点。

3 担当者からのメッセージ

『通訳演習』は、プロの通訳者養成トレーニングメソッドを積極的に導入した科目です。従来の英語学習とは違った視点で、実践的英語表現能力を磨いていきます。例えば「日本語と英語の特異性にも関わらず、なぜ同時通訳が可能なのか？」など皆さんが日頃抱いていた不思議が解明されるばかりでなく、皆さん自身が同時通訳者を体感する授業内容にもなっています。但し、より訓練効果を高めるためには、基礎的文法力の完成が不可欠です。早めに復習しておきましょう。

資料1 14 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 為西正和)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	時事英語	2	3年	普通科国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌・情報通信ネットワークなどに使われる英語の基礎的な知識と技能を習得する ・国際状況に関心を持ち、さまざまなメディアを通して国際社会に対する理解を深め、それについて自分の意見を述べる
使用教科書・副教材等	自主教材(英字新聞、TVニュース、インターネット上の時事記事等)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	インターネットの使い方 時事英語について 英字新聞 レポート課題(1)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・時事英語の基礎的な知識を習得する ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する 	インターネットを使用する際の注意事項を知らせる。インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。	期末考查
	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(1)	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する ・自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める 	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	
	プレゼンテーション ディスカッション	7	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する 	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。	
【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)					
【第1学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に2.5語を評価規準とする ・音読活動は1分間に140語の速さを評価規準とする 					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	インターネット上の時事記事 英字新聞 レポート課題(2)	8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事を読むことにより、その内容を理解する ・自分が設定した課題について、資料等を収集し、さらに理解を深める 	インターネット、英字新聞等を通して、世界情勢を知る。音読活動を毎時間行う。	期末考查
	プレゼンテーション ディスカッション	12	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだトピックについて、調べたものを発表し、内容についてお互い討論する 	プレゼンやディスカッションの仕方を身につけ、積極的に自己表現する。	
【課題・提出物等】 レポート(プレゼンテーションに使ったもの)					
【第1学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查(期末)、小テスト、提出物を総合的に評価する ・「書く力」は即時性において1分間に3.0語を評価規準とする ・音読活動は1分間に150語の速さを評価規準とする 					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲	
第 3 学 期	インターネット上の時事 記事 英字新聞	1 } 3	世界の出来事に興味関心を持ち、さまざまな記事 を読むことにより、その内容を理解する	インターネット、英字 新聞等を通して、世 界情勢を知る。音読 活動を毎時間行う。	学年末考查	
	[課題・提出物等] 特になし					
	[第1学期の評価方法] ・「書く力」は即時性において1分間に30語を評価規準とする ・音読活動は1分間に160語の速さを評価規準とする					

[年間の学習状況の評価法]
各学期での評価を総合的に判断して年間の評価とする。

確かな学力をつ けるアドバイス	普段から、日本のみならず、世界の出来事に 関心を持ち英字新聞や、インターネットを通 してその内容を英語で理解するようにする。
授業を受けるに 当って守ってほ しい事項	・予習がある場合には必ずする ・間違いを恐れず、積極的に自己表現する

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	積極的に英語を聞いたり、読んだりシ ミュレーションを図る態度が見られるか。	学習活動への参加の仕方 や態度
表現の能力	情報や知識をまとめて口頭で発表 したり、文章で表現しているか。	小テスト、定期考査、レポ ート、 <u>プレゼンテーション</u> 、 <u>毎時間の音読活動</u>
理解の能力	情報や話し手の内容を理解して いるか。	小テスト、定期考査
知識・理解	基本的な文章から、比較的高 度な内容のものまで理解できる 技能が身についたか。	小テスト、定期考査

3 担当者からのメッセージ

年間2回のレポート提出については、テーマを早めに決めて事前に各自で資料を集めて下さい。

資料1 15 ステップアップ・プログラムに基づく授業シラバス (担当 為西正和)

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
英語	英語表現	2	3年	普通科・国際コミュニケーションコース	選択

1 学習の到達目標

学習の到達目標	様々な情報や自らの意見などを伝える能力をより一層伸ばしながら、その能力を活用し積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	Impact ISSUES(LONGMAN) 及び英字新聞等の自主教材

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第1学期	教材の中からpeopleとに関する話題を題材として取り上げ、生徒同士のディスカッションを経、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	4	中間考査まではVALUES of people及びValues of relationshipsの中から生徒が取り上げたい内容を題材として選び、授業中のディスカッションを経、自らの意見を500語程度のessayにまとめる。また、中間考査以降期末考査までは、同じくValues in the workplaceの中から題材を選び同様の活動を続ける。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	VALUES of people, VALUES of relationships, VALUES in the workplace
		5			
		6			
		7			
	[課題・提出物等] 毎週essayを提出する。				
	[第1学期の評価方法] 各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第2学期	教材の中からfamilyに関する話題を題材として取り上げ、生徒同士のディスカッションを経、前年度より進んだ内容のessayを書かせる。	8	中間考査まではVALUES in the familyの中から生徒が取り上げたい内容を題材として選び、授業中のディスカッションを経、自らの意見を500語程度のessayにまとめる。また、中間考査以降期末考査までは、同じくValues in societyの中から題材を選び同様の活動を続ける。	毎授業で著名な演説のrecitation(100wpm)や題材に応じたdiscussionに取り組む。peer feedbackやteacher feedbackを通じて、essayの推敲を行う。	VALUES in the family, VALUES in society
		9			
		10			
		11			
		12			
	[課題・提出物等] 毎週essayを提出する。				
	[第2学期の評価方法] 各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通じて、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。				

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
第 3 学 期	卒業論文	1	題材は学校生活から社会問題にいたるまで広範囲から各自で自由に選ばせ、最終的には2000語程度のessayをterm paperとして完成させる。	peer feedbackやteacher feedbackを通して、最終essayを完成する。	卒業考查は実施せず、卒業論文の提出をもって考查に代える。
		2			
		3			
【課題・提出物等】最終essayである卒業論文を提出する。					
【第3学期の評価方法】第1学期・第2学期の評価と、卒業論文を併せて評価し、学年全体の評価とする。					

【年間の学習状況の評価方法】各授業ごとにおける意見発表等参加の度合いを意欲・関心を中心に個別に評価する。各自の取り上げた題材をessayにまとめさせ、提出されるたびごとに内容を中心に理解度を評価する。お互いが更に優れたessayを書くことができるよう、peer feedback等の活動を通して、協力しようとする意欲を評価し、また同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲も評価する。1年間の取り組みの集大成である卒業essayを主たる評価対象とする。

確かな学力をつけるアドバイス	essay提出の期限を遵守させ、お互いにお互いのessayや意見を批判しながらも尊重する姿勢を持つことの重要性を確認する。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	自らの意見を忌憚なく出し合う。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、間違えることを恐れず、積極的に言語活動を行おうとする。	essayの提出・peer feedback等の期限を遵守し、また、授業中に自ら自発的に発言する様子を記録する。
表現	自らの意向や意見をできるだけ分かりやすく、適切に表現する	essayを相互に点検したり、AETやJTEによる推敲を通して、よりすぐれたessayにしようとする姿勢を評価する。
理解	様々な情報の中から必要と思われるものを選別し、それを正しく読み取ることができる。	お互いのessayやrecitationや発表を理解し、自らの考えと関連させて質問する。
知識・理解	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解できる。	言語や文化についての基礎的な理解を基盤に、様々な情報や相手の意向などを理解し、コメントを加える。

3 担当者からのメッセージ

自分自身を表現しよう。

資料 2 1 SELHi 研究開発成果中間報告会の研究授業指導案 授業の概略

公開研究授業の概要

授業	学年	コース	科目	ステップ	概略	教室	担当
公開授業 10:45 ~ 11:35	1年	国際	英語	音読	英語を使用したコミュニケーション活動の基礎的な能力の育成をめざす科目。設定した目標値を既に超えているが、本時も音読のトレーニングに十分に行い、同時にパラグラフ・各英文の内容を正しく把握する。	北棟 3階 LL3	栗原 誠
	1年	国際	英語	音読	音読活動を通じ、英語を使用したコミュニケーション活動の基礎的な能力の育成をめざす科目。既に1分間で120語の音読という目標は越えており、更にその能力を伸ばしたい。英字新聞を題材にし、英問英答で要約し発表する能力を伸ばす。	北棟 3階 LL2	住田 恒三
	2年	国際	英語表現	即興	2年英語表現は、「読む(read)」「考える(think)」「表現する(express)」を授業展開の基本フォーマットとしている。18名の生徒を3グループに分け、本時は教師が進行役となり「人生における成功とは何か」をモチーフにディスカッションを展開する。	北棟 2階 国際 ホール	佐藤 将記 クレイ・ネリット ナタリー・ヤンチャムナム
	2年	国際	異文化理解	暗誦	CALL機器を活用することにより、英語の音声的特徴を習得し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する科目。1学期および2学期は、ダイアログの暗誦と発表活動を行なっている。本時はこれまでの授業形態のエッセンスを展開する。	北棟 3階 CALL	堂鼻 康晴
	3年	普通 文型	リーディング	音読	大学入試問題集の読解問題を題材に、さまざまな音読を取り入れ、楽しい雰囲気の中で英語を学べるように努めている。読解については、段落毎にまず主題を把握した後、詳細について理解し、最後に音読等により定着を図る流れで授業を進める。	東棟 2階 204号	栗栖 五代
	3年	普通 文型	リーディング	音読	英文を読んでその内容を理解する能力を伸ばすことを目標としている。2学期は音読等を通して、パラグラフごとのつながりを意識する授業を行っている。本時は、各パラグラフのトピックセンテンスを見つけ出し、全体の概要を把握する。	東棟 1階 106号	為西 正和
公開授業 11:45 ~ 12:35	1年	国際	オーラル・コミュニケーション	即興	間違いを恐れず積極的に英語で発信していく姿勢を育成していくことを目的とする科目。小グループに分かれ、その場で与えられた話題について1分半メモを取り(ブレーストミング)、その後1分半の即興スピーチを行う。	北棟 2階 国際 ホール	川本 由美 クレイ・ネリット ナタリー・ヤンチャムナム
	1年	国際	総合英語	暗誦	CALL教室の機器を用いて、英文の構造を理解し、習得していく活動を行っている。Recitation Practice、Pattern Practice、ペアワーク等を行ってインプットされた知識をアウトプットに結びつけることをねらいとする。	北棟 3階 CALL	大鴻 淳二
	2年	国際	英語	音読	教科書で学習した「英語の変種」を題材とし、「生徒は3～4名の各国代表団に扮して、自国の英語について発言する」という趣旨のもとで行われる「プチ国際会議」。音読をベースとし、暗誦、即興へと発展させる。	東棟3階 303号 304号	佐々木 百合子 佐藤 将記
	2年	普通	英語	音読	1学期に行ったペア和訳から、2学期は速読力伸長を目指したサイト・トランスレーションを中心に授業を行う。英問英答や音読で理解を深めた後、マッピングからプチ英作文を取り入れ、楽しい雰囲気の中でコミュニケーション活動の基礎的な能力の育成をめざす。	東棟4階 404号	近藤 あゆみ
	3年	国際	コミュニケーション	即興	英語で即興的に意思疎通するためのトレーニングを中心とする科目。2学期は「トーキングマッチ」と「ディベート」を行っている。本時は、普段のトレーニングに加えて、トーキングマッチの団体戦を行う。	東棟 2階 201号	西 巖弘 横山 直子

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 栗原 誠

1. 授 業 名 『英語』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 北棟3階 LL3教室
5. 対 象 1年 9組 21名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 PRO-VISION ENGLISH COURSE I LESSON 7 『An Architect for the Environment』 (桐原書店)
8. 背 景

(1) 教材観

身近な「紙」を使用した建築物を扱った説明文である。言語材料の新出項目が比較的少なく、内容把握をしやすい教材である。ある建築家の信念ある行動についての英文を読み、自分は環境に対して何ができるかを考え、essay writing で表現させたい。

(2) 生徒観

国際コミュニケーションコースの生徒であり、英語に対する関心は高い。音読トレーニングにも積極的に集中して取り組んでいる。小人数(21名)のクラス編成であるが、生徒一人ひとりの英語力にはかなりの幅がある。

(3) 指導観

ステップアッププログラム中の科目目標を達成できるように、1学期からトレーニング活動を毎時間行ってきた。また、生徒が楽しんで大きな声で発声できるような雰囲気作りに努めた。読解力の養成と併せて、発信型コミュニケーション能力の向上へと発展させるような指導を続けたい。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1	本課への導入・題材の背景知識・本課のkey words・本文(1)の内容理解
2(本時)～4	本文(1)～本文(4)の内容理解・音読
5	本課のまとめ・language workshop(vocabulary)・essay writing

10. 本時案

(1) ねらい

本文の内容を理解する。

本文中の構文・文法事項を理解し、使えるようにする。

リピーティング・シャドウイング等による音声トレーニングの徹底

(2) 準備物

- ・ 教科書等
- ・ 個人用カセットテープ

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・始めのあいさつ ・前時の内容確認 ・part 1 の本文視聴 ・本文カセットテープの頭出し箇所を各自でセットする。(音読反復練習用) 	<p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p>
展開	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・part 1の英文を読み、理解する。(内容を鑑賞したり、情報を把握したりする) ・語句、表現、文型、文法を理解し、英文の意味を正確に把握する。 	<p>文章の内容を理解できているかどうかを確認する。 英文を細部にわたって正確に理解しているかどうかに留意する。 取り組みの姿勢を観察評価する。 指名回答させて形成評価する。</p>
まとめ	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・音読(各自) リピーティング、シャドウイング実施 ・音読(一斉) リピーティング、シャドウイング実施 ・暗唱 ・次時の小テストを予告する。 ・終わりのあいさつ 	<p>英文目視 音声のみで音読するように各自で段階的に実施させる。 取り組みの姿勢を観察評価する。 モニタリングしながら形成評価する。 教材提示機で日本文を提示する。</p>

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 住田 恒三

1. 授 業 名 『英語 』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 北棟3階 LL2教室
5. 対 象 1年 9組 20名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 英字新聞読解
7. 教 材 『MAINICHI Weekly No.1722(10/15/2005)』
8. 背 景

■ (1) 教材観

前週まで扱っていた教科書から離れ、今週は英字新聞(10月15日付のMAINICHI Weeklyの第1面の英文)の読解を試みる。第1学年の生徒にとってはやや難解な文章ではあるが、語彙プリントや読解用プリントを活用して概要を掴ませ、音読を通して内容を把握させたい。

■ (2) 生徒観

普通科国際コミュニケーションコース1年9組の生徒20名である。英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢にあふれ、英問英答の授業展開等には意欲的に取り組んでいる。音読に関しても既に目標値の毎分120語を越えており、音読活動を読解に結び付けさせたい。

■ (3) 指導観

難解な文章であっても全文訳にこだわらず、パラグラフごとの要約をめざした英問英答等の活動を通して、内容把握を図りたい。また、今回のような平和問題を授業で扱うことにより、国際交流の場を多く経験する国際コミュニケーションコースの生徒のピース・メッセンジャーとしての認識も深めさせたい。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1～2	CD音声視聴、音読、語彙プリント・読解用プリントを活用した内容把握
3(本時)	音読、要約、エッセイ

10. 本時案

■ (1) ねらい

- 難解な文章の内容を要約しながら把握する力をつける。
- 文章の内容に関連させて自らの意見をまとめる力をつける。
- 国際問題や平和問題に取り組む積極的な姿勢を伸ばす。

■ (2) 準備物

- ・ 本文プリント
- ・ 語彙プリント 及び 読解用プリント
- ・ CDプレイヤー

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・前時の内容確認 ・CD視聴(128秒) ・音読(2回) 	CDに合わせて、音読する。
展開	25分	<p>内容把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解用プリントのQUESTIONS for COMPREHENSIONを用いて、英問英答で内容を把握する。 	<p>文章の流れに合わせて生徒に質問し、それに答えることで内容把握につながることを確認する。</p> <p>自らの考えを自らの言葉で答えようとする姿勢を評価する。</p>
まとめ	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・QUESTIONS for DISCUSSIONを用いて、英語で自らの意見をまとめる。 ・その中からテーマを一つ選び、英語エッセイを書く課題を与える。 ・挨拶 	<p>他の生徒の意見を聞き、それを参考にしながら自分の意見をまとめさせる。</p> <p>自らの考えを自らの言葉で答えようとする姿勢を評価する。</p>

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 佐藤 将記

外国語指導助手 クレイグ・ネヴィット

ナタリー・ヤンチャムナン

1. 授業名 『英語表現』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 東棟3階 304号教室
5. 対 象 2年 10組 19名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 グループディスカッション
7. 教 材 『How do you spell S-U-C-C-E-S-S?』
8. 背 景

(1) 教材観

「読む」、「考える」、そして「表現する」の流れが本科における基本であり、環境問題、国際関係、あるいはライフスタイルや友人といった、生徒たちに身近な題材を扱うことで、生徒たちの書くこと、話すことへの積極性を高めたい。各グループでのディスカッション内容は、グループ内のレポーター役が集約し、全体に発表することでクラス全体のものとしている。

(2) 生徒観

「パブリック・スピーチ」など、あらかじめ用意してきた内容を発表する場面、あるいは「2分間モノログ」や「グループ・ディスカッション」といった即興で発言しなければならない場面など、英語を話さなければならない状況(forced situation)をできるだけ多く経験させることが、生徒たちの「話す」ことへの自信と積極性を高める。

(3) 指導観

2年英語表現(2単位)では、(1)グループディスカッション、(2)エッセイライティング、(3)ショートターム・イベント(パブリックスピーチ、インフォーマルディベート、リサーチ&プレゼンなど)を柱に授業を展開している。各活動における有効性を高めるうえで、語彙力や基礎文法・構文の知識、あるいはレシテーションなど流暢さを高めるトレーニングがいかに重要なものであるかについても、認識を高めさせたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1 (本時)	グループディスカッション
2	エッセイピアリビジョン

10. 本時案

(1) ねらい

ディスカッションに積極的に参加しようとする態度を身につけさせる。

即興でのスピーキング力の養成を図る。

英語を話し、書く活動の背景となる文化的、社会的な事柄に対する関心と理解を深める。

(2) 準備物

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	<u>Two-minute Speech</u> (毎時行っているオープニング・アクティビティ)	ペアワーク。与えられたトピックについて、モノローグの形式でパートナーに向かって2分間即興で話し続ける。 話し手は2分間話し続けることが要求される。聞き手は、自分のパートナーの話した内容について伝えることができること。
展開	35分	<u>Discussion Part</u> (1) Reading Comprehension Check Quiz (5分) (2) Brainstorming (5分) (3) Group Discussion (25分)	課題として与えられている文章 (How do you spell S-U-C-C-E-S-S)の内容把握に関するクイズ クラス全体。トピックは"Success"。活発に発言できるようにリードしていく。 3つのグループに分かれてのディスカッション。 事前に配布されているクエッションシートに基づいて進行していく。進行役は教師。各グループであらかじめレポーター役を決めておく。
まとめ	10分	<u>Reporting</u> (10分)	各グループでのディスカッションの結論をグループごとにレポーターが全体に報告する。 発表を通じて何を感じたか、「今」を生活している私たちは何をすべきかをまとめる。

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 堂 鼻 康 晴

1. 授 業 名 『異文化理解』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 北棟3階 CALL教室
5. 対 象 2年10組 17名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 CALL機器を活用した英語音声的特徴の習得およびスキットの音読・暗誦・表現活動
7. 教 材 『英語リピーティング入門』(アルク) ほか
8. 背 景

(1) 教材観

本教材は、音声情報を細大漏らさず聞き取り、話者の話し方(リズム、イントネーション、発音、間の取り方など)をそっくりまねて、自分が実際に話しているつもりになって音読する活動、所謂「リピーティング」による英語力の向上を図るものである。本時では日本人が軽視しがちな[ou]の音に焦点を当てた音読・暗誦活動を行なう。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とする生徒が多く、基礎学力の定着が見られ学習意欲は高い。授業においても、音読活動やペア活動にも積極的に取り組む明るい雰囲気クラスである。ただ、ネイティブのような完璧な英語習得を目指す生徒がいる一方で、コミュニケーションが取れば完璧でなくてもよいと感じている生徒もあり、英語に関する感覚の違いが見られる。

(3) 指導観

1学期はスピーキングの基礎となるリズム、イントネーション、発音などに焦点を当て基本練習を行ってきた。2学期も引き続き同様の練習を行なっているが、より英語の使用場面を意識させるためにスキットの表現場面を撮影し、相互評価を行なっている。今後は応用練習として、スピーチ、ディスカッション、演説などの場面を取り上げ、より実践的なリスニングおよびスピーキングの練習をする。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1 (本時)	新しい発音記号の導入およびスキットの音読訓練
2~3	スキットの運用訓練および表現活動の撮影
4	制作したスキットの鑑賞および評価

10. 本時案

(1) ねらい

- 日英の発想と発話表出の異同に気づかせる。
- スキットの音読および運用訓練を通して[ou]の発音に慣れさせる。
- 本時まで制作・撮影したスキットに関して相互評価させる。

(2) 準備物

- ・『Pronunciation Power』Blackstone Multimedia Corporation ・リズムマシン
- ・『サキター一家のアメリカ体験』大修館書店 ・ビデオカメラ ・"Post-it"

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	15分	Greeting Rhythm Training Cultural Awareness through "Manga"	リズムマシンを利用し、"英語舌"のwarm upを図る。大きな声で読むよう激励する。取り組みの姿勢を観察評価する。 日本語の直訳によるmiscommunication に気づかせる。取り組みの姿勢を観察評価する。
展開	34分	Introduction of Phonetic Alphabet [ou] Skit Training ・Listening + Q & A ・Repeating (& Shadowing) ・Reading Aloud in Pairs ・Body Language & Gestures ・Memorization of the Skit Watching VTRs of the Previous Skit	『Pronunciation Power』を利用し、音声の確認、Sample Words、Comparative Words、Sentence Readingの訓練を行なう。取り組みの姿勢を観察評価する。 プレゼンソフトを活用し、スキットの導入を行なう。指名回答させて形成評価する。 個々のLL機器で音読活動をさせる。モニタリングしながら形成評価する。モデルダイアログを聞きながら、場面に応じたgestureをさせる。取り組みの姿勢を観察評価する。 良い点・改善点を書かせ、次回スキット制作時に活かすよう助言する。取り組みの姿勢を観察評価する。VTRの内容について評価する。
まとめ	1分	Announcement of the Following Lesson	次時はスキットの撮影を開始することを伝達する。そして、撮影日までにペアによる音読・暗誦練習を徹底的に行なうよう助言する。

1. 授業名 『リーディング』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 東棟2階 204号教室
5. 対 象 3年サ組 23名(普通科・普通・文系・標準クラス)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 『LINK UP英語総合問題集』(数研出版)
8. 背 景

(1) 教材観

本時に扱う教材は大学入試に必要とされる高度な英語力を身につけることを目的としたもので、読解、文法・語法、英作文など様々な問題形式を学習できる。教科書『CROWN English Reading』(三省堂)の他に、6月より大学入試対策のためこの問題集を持たせて、演習中心の授業に切り替えている。

(2) 生徒観

普通科・文系・標準クラスは、国公立又は私立4年制大学、短大、専門学校など様々な進路希望の生徒で構成されている。英語力は多様であるが、最近では自分の進路実現を目指して各自意欲的に学習に取り組む姿勢が顕著である。今後に期待している。

(3) 指導観

教室英語を使い、なるべく英語で授業を行って、生徒が楽しい雰囲気の中で英語を学べるように努める。但し、精読などは日本語も交えて生徒が理解を深めるようにする。読解については、段落毎に、まず主題を把握した後、詳細について理解し、最後に音読等により定着を図る流れで授業を進める。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1	読解問題の大意把握・詳細理解・音読
2(本時)	読解問題の大意把握・詳細理解・音読・復習
3	文法・語法問題、発音・アクセント問題、英作文問題の演習

10. 本時案

(1) ねらい

- 様々な形の音読ができるようになる。
- 長く、複雑な英文の構造を理解できるようになる。
- 重要表現が定着し、使えるようになる。

(2) 準備物

- ・音読予習プリント及び復習プリント
- ・ボールペン

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・始めの挨拶、出欠確認、本時の予定確認 ・前時の内容確認 ・CDの視聴 	<p>第1段落が主張で、第2・3段落はそれを支える根拠。第2段落はwhyの個所。</p>
展開	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・第3段落のトピックセンテンス選びで主題把握 ・第3段落のQ&Aで要点把握 ・予習プリントをもとに第3段落の細部に関する理解を深める(精読) ・全体で第3段落の一斉読み(コーラスリーディング) ・全員立たせて、ペアで第3段落の交互読み(ペアリーディング)。終わったペアから座らせる。 ・Lesson 8 の要約文(ALT作成)の完成、空所を確認。 	<p>第3段落はhowの個所。</p> <p>抽象 具体の流れに注意させる</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する</p>
まとめ	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・復習プリントで本文から抜粋した文をリズム読み ・ペアになって単語・表現の日 英の翻訳練習(最初は順番通り、次はランダム) ・全員を立たせて、ゲーム形式で日 英の翻訳(正解だったら座る) ・最後に残った生徒に表現読みをさせる ・終わりの挨拶 	<p>ボールペンで拍子を取りながら、最初は遅く、徐々にテンポを速めて計3回机間巡視し、取り組みの姿勢を観察評価する</p> <p>体全体を使って表現させる</p>

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 為 西 正 和

1. 授 業 名 『リーディング』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 3 限
4. 場 所 東棟1階 106号教室
5. 対 象 3年力組 30名(普通科・普通・文系・発展クラス)
6. 内 容 英文読解と音読
7. 教 材 『LINK UP 英語総合問題集 実践編』 Lesson 9 (数研出版)
8. 背 景

(1) 教材観

大学入試に必要とされる高度な英語力を身につけることを目的としたもので、読解、文法・語法、英作文などさまざまな問題を学習できる。Lesson 9では、民族また時代別の、「新年の始まり」の捉え方を読み深めていく。生徒にとっては身近な内容で、比較的読みやすいものであると思われる。

(2) 生徒観

本発展クラスの生徒は、ほとんどが大学進学を目指している。学習意欲があり、さまざまな学習活動に積極的に取り組もうとする姿勢が見受けられる。しかしながら、長文に対しては抵抗感を持つ生徒が少なくない。これは、あまりにも細部を気にするため、全体把握ができないことが原因のひとつと考えられる。

(3) 指導観

1学期より、音読ならびに速読を活動の中心として内容把握に努めてきた。音読では3分の1の生徒が、125wpmを超えるようになった。本授業では音読やリスニングを通して概要を把握すると共に、パラグラフ毎にトピックセンテンスを見つけ出し、全体の大意をつかむ。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1(本時)	音読・本文大意把握
2	内容理解、演習問題
3	文法・語法・英作文演習

10. 本時案

(1) ねらい

音読やリスニングを通して概要を把握する。

パラグラフ毎のトピックセンテンスを見つけ出し、大意をつかむ。

(2) 準備物

- ・ CDプレーヤー
- ・ ハンドアウト
- ・ ストップウォッチ

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の予定を知る ・CDを2回聞き、重要だと思う語句を書き留める ・書き留めた語句から、内容を推測し発表する(日本語) ・CDをもう1度聞く ・1分間音読をする ・CDに合わせてオーバーラッピングする 	<p>適切なkey words が聞き取れている</p> <p>内容が本文に即したものになっている</p> <p>テキストを見ながら発音、アクセントを確認する</p> <p>読んだ語の数を記入する。(120wpmを目標とする)</p> <p>発音やアクセント、意味などを意識しながら行わせる</p>
展開	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフごとのトピックセンテンスを見つける ・トピックセンテンスを発表する ・トピックセンテンスを基に、本文の大意をまとめる。 ・大意を発表する 	<p>ペアワーク</p> <p>漠然から具体へという論の流れを意識させる</p> <p>適切なトピックセンテンスを選ぶことができる</p> <p>特に語数は指定せず自由に書かせる。</p> <p>机間巡視をし、必要であれば助言をする</p> <p>パラグラフごとのトピックセンテンスのつながりがうまくできている</p> <p>一部をまとめたものでなく、全体をまとめたものになっている</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容を知る 	<p>サイト・トランスレーションリーディング、問題演習をする事を知らせる</p>

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 川本 由美
 外国語指導助手 クレイグ・ネビット
 ナタリー・ヤンチャムナム

1. 授業名 『OCI』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 国際コミュニケーションホール
5. 対 象 1年 9組 20名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 即興スピーチ
7. 背 景

(1) 教材観

「OCI」では積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらって1分間モノログ、ブレンストーミング、エッセイライティング、ピアリビジョン、スピーチといった活動を行っている。今学期は11月にある校内スピーチコンテストに向けて「自分の意見を持ち、相手に伝えようとする」ことを目標に小グループ内で即興スピーチを取り入れ本時を含め、3時間目である。

(2) 生徒観

英語のコミュニケーション活動に対する関心は高いが、積極的に英語で発信する自信はなかなか持てない。Show&Tellなどグループワークは期待以上のものを発表できるが、ペアワーク等の1分間モノログは未だ時間いっぱいには話せないものもいる。

(3) 指導観

英語で積極的に発信していくためには、まず自分自身の意見を持ち、それをいかに聞き手に分かりやすく説明できるかを指導してきた。エッセイライティング等を通して、文章構成を意識した思考力や表現力を身につけると共に、間違いを恐れず英語を積極的に話す態度の育成にも力を入れていきたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1～4	エッセイの書き方、ブレンストーミングや英検パターンのインタビューの練習
5～9	エッセイのピアリビジョン、スピーチの仕方と発表練習
10～14	即興スピーチの練習 (本時3時間目)

10. 本時案

(1) ねらい

積極的に英語で話すことができるようになる。

自分の考えを持ち、まとめていくことができるようになる。

(2) 準備物

・ジャッジシート ・ストップウォッチ ・テーマプリント

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・impromptu speechesについて説明を聞く ・話して、聞き手として心がけるべきことの確認。 	<p>即興スピーチの方法と留意点について再度確認する。</p> <p>評価シートの内容を確認する。</p>
展開	40分	<p>3つのグループに分かれ話し手は1分30秒間ブレンストーミングをしながらノートにアイデアを書き出す。(他の生徒も練習として各自メモをとる。)</p> <p>与えられた話題に関して1分30秒間話す。</p> <p>聞き手は評価シートにマークし、コメントをつける。</p>	<p>各グループに分かれコメントをつける。</p> <p>学習効果を持たせるよう留意する。</p>
まとめ	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 	<p>総評を述べ、生徒の優れた点や改善できる点を指摘する。</p> <p>課題の確認</p>

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 大 鴻 淳 二

1. 授 業 名 『総合英語』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 北棟3階 CALL教室
5. 対 象 1年 9組 21名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 ビデオ教材やコンピュータソフトを使用した文法事項の学習・暗誦・表現活動
7. 教 材 『DUAL SCOPE English Grammar in 28 Stages』 (数研出版)
8. 背 景

(1) 教材観

単調になりがちな文法の学習を、興味を持って学習できるようにビデオ教材やコンピュータソフトを使用して授業を展開している。

(2) 生徒観

1年終了時までには、1分間に80語で暗誦できることを目標としている。また、文法事項を学習していく中で、自分たちの考えが様々な場面で相手にうまく伝わるように、2学期より各単元の復習時にボイスオーバーなどを取り入れて学習している。

(3) 指導観

基本的な例文を暗誦だけにとどめず、いろいろな場面で運用できるように努めていく。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1	動名詞(Extra Lesson の続き)、分詞
2(本時) - 3	動名詞の復習、分詞 - 分詞構文
4	分詞構文の復習、完了形の分詞構文、慣用表現

10. 本時案

(1) ねらい

既習事項の動名詞を使用して様々な表現をできるようにする。

分詞や分詞構文の構造について理解させる。

はっきりと大きな声で発表できるようにする。

(2) 準備物

- ・ビデオソフト
- ・プリント

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	・コンピュータソフト「ELTAS」を使用して動名詞の慣用表現の復習	「ELTAS」のQuick Responseを使用して、反射的に日本語を英語に直せるようにする。
展開	40分	・ビデオ教材を使用して、動名詞の復習を行う。 ・分詞、分詞構文の説明(プリント使用) ・コンピュータソフト「ELTAS」を使用して分詞構文の書き換えや暗誦の練習。	ビデオ教材の一場面を使用して、各ペアに会話文を作らせる。その際、前時で履修した動名詞の構文や慣用表現を使用するように指示。その後、音声を消したスクリーン上の画面に合わせて、各ペアが発表する。(ボイスオーバー) 声の大きさ、文の適切さを評価
まとめ	5分	・暗誦(分詞構文)	声の大きさ、流暢さを評価

1. 授 業 名 『英語』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 東棟3階 303号教室
5. 対 象 2年10組 18名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 プチ国際会議
7. 教 材 『Crown English Series Lesson 6 "Singlish Bad; English Good"』(三省堂)
8. 背 景

(1) 教材観

生徒たちはこれまで、英語を媒介にしての海外の高校生との意思疎通が思うようにうまくいかない経験をしてきた。この度、学習した"Singlish Bad; English Good"から、その原因の一端が英語の多様性にあるのではないかと考えた。『プチ国際会議』という形の発表を通じて、「音読」をベースに、「スピーチ作り」「暗誦」「即興」の力を養成したいと考えた。

生徒観

「シャワーを浴びるがごとく英語に触れさせる」という信念のもとに、毎時「音読」、「暗誦」「シャドウイング」「中抜きプリント」等で英語発話の訓練を重ねている。

(3) 指導観

本コースは『英語で議論出来る発信能力の育成』を目標の一つとしている。そのため、日々の授業での音読、暗誦に重きを置いている。今回は論理的で説得力のある思考力養成に心がけた。本時は、ユーロ・スコラでの経験を生かして「音読」「スピーチ作り」「暗誦」「即興」の成果を発表する。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1 ~ 4	テキスト(Lesson6)の内容把握
5 ~ 7	発表の概要説明、及び資料収集、原稿作り
8(本時)	発表『プチ国際会議』

10. 本時案

(1) ねらい

世界各国で使用されている様々な種類の英語の起源、特徴などを学ぶ。

『プチ国際会議』で自分達が調べてきた内容について工夫を凝らして自由に発表する。

相手の発表内容を理解し、英語の多様性について学習する。

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	<p>Opening</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会進行役により開会 ・Opening Speakerによる内容紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の多様性についての発表をするに至った経緯を説明する。 ・聴衆に問題点を提起する。
展開	40分	<p>Presentation by the Representatives</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"Indiglish" ・"Afriglish" ・"Spangilish" ・"Jaglish" ・"British" <p>・発表に関する質疑応答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に自分たちの発表を終えるようにする。 ・はっきりと、大きい声で自然に発表するように努力する。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・Closing Speakerによるまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を通じて何を感じたか、「今」を生活している私たちは何をすべきかをまとめる。

1. 授 業 名 『英語』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 東棟4階 404号教室
5. 対 象 2年 4組 41名 (普通科・普通コース)
6. 内 容 音読と暗誦
7. 教 材 『Crown English Series Lesson 5 Mars』(三省堂)
8. 背 景

(1) 教材観

本課では、地球と火星の環境を比較しながら、「テラフォーミング(惑星地球化計画)」を火星に施す方法について考える。内容把握に関しては、全文訳にこだわらず、語彙と英問英答を通して大意把握をする。サイト・トランスレーションや音読、和文英訳のペア活動を取り入れ、楽しい雰囲気の中でバランスよく基本的英語力の伸長を図る。

(2) 生徒観

中学時代から英語を得意とする生徒も多く、基礎学力の定着が見られ学習意欲は高い。授業においても音読活動やペア活動に積極的に取り組む、明るい雰囲気クラスである。高校に入ってから英語に苦手意識を感じている生徒もいるが、全体として授業への関心は高く、1分間に120語程度で読解する力を付けることを目指し、熱心に取り組んでいる。

(3) 指導観

教室英語を使い、英語を発話する場やペア活動を多く取り入れることで、生徒が楽しい雰囲気の中で英語を学べるよう努めている。またペア活動では相手にヒントを出すなど、お互いに助け合う姿勢を育みたいと考えている。読解に関しては、サイト・トランスレーションと音読を中心に据えることで、正しい和訳を作るという心的プレッシャーを取り除き、英語から日本語への変換速度を速めることを最大の目標とする。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1	前パート(パート3)のまとめ、パート4の発音・アクセントと語彙の確認、音読
2(本時)	英語による質疑応答、内容理解、英作文、意見交換
3	文法・語法のまとめ

10. 本時案

(1) ねらい

英問英答や音読を通して、概要を把握する。

サイト・トランスレーションで英日の変換速度を速め、ペア活動では日英訳に挑戦する。

内容に関するマッピングと英作文を行い、意見交換と発表を行う。

(2) 準備物

- ・CDプレーヤー
- ・授業プリント(2種類)
- ・ストップウォッチ

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	5分	(1) 英単語テスト(毎時の課題) (2) 本時の予告 (3) CDリスニング	前時に学習した内容を思い出しながら、CDを聞くよう指示する。 教科書やプリントを見ながら、注意して本文を聞いている。
展開	35分	(1) 英問英答による内容把握と意見交換 (2) 音読 (3) サイト・トランスレーション (4) キーセンテンスの発表 (5) ペア活動(日英訳) (6) マッピング(板書)	積極的に答を探し、教科書に下線をひいているか。またペアと意欲的に意見交換している。 日本語を隠し、一行ずつずらして訳を確認しながら速さを意識して読むように指示する。 お互いにヒントを出し合うって英語に直す練習をするよう励ます。 間違いをおそれず、意欲的に英語を発話しようとしている。 積極的に意見を発表している。 教科書やノートを見て、思ったことを発話するよう励ます。
まとめ	10分	(1) 黒板のマッピングを参考に、与えられたトピックについて英作文 (2) 意見交換と発表	学習した内容を思い出しながら、意見があれば挙手して発表するよう指示する。発表した意見は、プリントに記録する。 時間内にできるだけ多く書いているか。自分の意見を発表できた。

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

教 諭 西 巖弘
教 諭 横山 直子

1. 授 業 名 『コミュニケーション』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 東棟2階 201号教室
5. 対 象 3年10組 41名 (普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 トーキング・マッチ
7. 教 材 『Debating the Issues』 (MacMillan Languagehouse)
8. 背 景

(1) 教材観

「トーキングマッチ」は、英語で議論する技能の向上をねらって、ディベートよりもインフォーマルな状況で意見を戦わせる訓練である。グループごとに討論者と評価者(ジャッジ)を何度も交代で経験できるので、スピーキング、リスニング、論理的思考力を鍛えることができると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、今年度の初めから本授業で毎回1分間と2分間のモログ練習を行ってきた。その結果現在、身近な話題と賛否両論のある話題という発話上の負荷が異なる2種類の話題のどちらにおいても平均で1分間に70語程度のスピーキングをしている。

(3) 指導観

トーキングマッチで勝つためには、相手の意見を理解した上で、効果的な論拠を速く正しく発言しなくてはならない。この点の向上のために、評価者(ジャッジ)の経験を利用して各自の改善点に気づかせつつ、効果的なコミュニケーションの取り方について考えさせたい。

9. 学 習 指 導 計 画

時	学習内容・学習活動
1～5	ジャッジの仕方とトーキングマッチ練習
6～10	ディベートの実践
11～14(本時)	トーキングマッチのまとめ

10. 本時案

(1) ねらい

より説得力のある意見を述べるようになる。

より素早く意見を述べるようになる。

より正確に評価(ジャッジ)ができるようになる。

(2) 準備物

・トーキングマッチ用カセット

・ワードカウンター

・ジャッジシート

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導()と評価()の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の予定 ・1分間モノログ ・2分間モノログ 	<p>トーキングマッチの方法と留意点について再度確認する。</p> <p>モノログ中は机間巡視し、形成的評価を行う。</p> <p>流畅さを記録用紙に記入させる。</p>
展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・トーキングマッチ ブレンストーミング トーキングマッチ(Inter-group) トーキングマッチ(Intra-group) 	<p>本時は、5つのスタジアムを設けて、団体戦を行う。普段よりformalityが上がる中で、討論者、評価者ともこれまでの学習成果が十分に生かせるよう配慮する。</p> <p>取り組みの姿勢を観察評価する。</p> <p>ジャッジシートを回収して評価する。</p>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・5分間ライティング 	<p>本時は、トーキングマッチのテーマについて書かせる。ただし、進行状況によってはhomeworkとする。</p> <p>ライティングの内容を評価する。</p>

ユーロスカラシップ（国際コミュニケーションコース修学旅行）

時期	平成17年5月6日(金)～5月17日(火) 11泊12日
場所	フランス ストラスブール
対象	広島市立舟入高校学校普通科国際コミュニケーションコース2年生40名

ユーロ会議にアジア諸国の代表として参加し、スピーチとプレゼンテーションを行った。

日程及び概要

日程	実施内容	場所
5月6日(金) 7日(土)	広島発～フランクフルト着 フランクフルト発～仏・ストラスブール着 ストラスブール市長訪問(市長メッセージ持参)	ストラスブール市 庁舎
8日(日)	<u>ユーロスコラ参加</u> (参加者数 600名) テーマ: 世界平和 内容: 広島コーナーの設置(担当: 15名程度) 「原爆プレゼン」(写真・PWにより実相を説明) 「Life of SADAKO」(紙芝居) グループ討議(5グループに5名ずつ参加) ・「欧州憲法」- 欧州の平和の要因になるか? ・「共通安全保障政策」- 世界の防衛、安全保障 ・「世界平和のための欧州」- 紛争の予防と解決のための 欧州の役割 ・「平和に奉仕する若者」- 教育、文化、価値 ・「欧州と世界の未来」- 普遍的な平和は可能か <u>「広島コーナー」と「グループ討議」は同時開催</u>	ストラスブール 欧州議会本会議場
9日(月)	在ストラスブール日本総領事館訪問・懇談会 ストラスブールからコルマルへ移動 コルマルのバルトルディー高校訪問 歓迎コンサート	在ストラスブール 日本総領事館
10日(火)	バルトルディー高校との交流会 ・両校の紹介プレゼンテーション ・アルザス日本学欧州研究所(原爆展の共催者)のプレゼンテーション ・交流行事 アルザス日本学欧州研究所訪問 ・「原爆プレゼン」(写真・PWにより実相を説明) ・「Life of SADAKO」(紙芝居)	バルトルディー高校 アルザス日本学欧州研究所
11日(水)	コルマル市長主催歓迎式典(市長メッセージ持参) バルトルディー高校隣接チャペル 「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展」において舟入高ブ レゼンテーション	コルマル市庁舎 バルトルディー高校
12日(木)	アルザス地方訪問歓迎式典 コルマルからパリへ移動 フランス平和運動ユースメンバーとの交流	パリ
13日(金)	マラコフ市長訪問(市長メッセージ持参) 美帆・シボさんの講演会	マラコフ市庁舎
14日(土)	パリから英・ロンドンへ移動	ロンドン
15日(日)	ロンドン視察	
16日(月)	ロンドン発	
～17日(火)	広島着	

詳細を掲載しているサイト: http://www.geocities.jp/funairi_selhi/

資料3 2

国際交流宿泊研修（英語キャンプ）

1 目的と概要

「同世代の外国人留学生と生活を共にしながら、コミュニケーション能力を養うと同時に、異文化理解の基礎となる態度の育成を目指す。」ことを目的とし、参加生徒が本校に入学後4か月間『オーラル・コミュニケーション』などの授業で培ってきた口頭発表力を実践的に試行する場を提供する。したがって、参加生徒は研修期間中は極力英語のみを使用して、“英語漬けの生活”を送ることが望まれる。また、本研修は、3月に実施される「海外(カナダ)語学研修」や翌年10月の「海外(オーストラリア)修学旅行」へ繋がる試金石的な異文化体験プログラムとして位置づいている。

2 実施時期 7月21日(木)～7月23日(土) 2泊3日

3 場 所 国立江田島青年の家 (広島県安芸郡江田島町津久茂一丁目1番1号)

4 参加者

生 徒 舟入高校普通科国際コミュニケーションコース1年生40名(男子6名、女子34名)

引率教諭 舟入高校教諭5名

講 師 日本国際交流協会(JFIE)国際教育ワークショップ講師

留 学 生 ニュージーランド出身高校生及び大学生、オーストラリア出身高校生、大韓民国出身大学生

5 日程

	時 刻	活 動 内 容 [場 所]
第 1 日	10:30	広島港集合 点呼完了後乗船
	11:00	広島港出発
	11:25	切串港到着 貸切バスにて「国立江田島青年の家」に移動
	12:00	昼食
	13:30～13:45	開校式(入所オリエンテーション、学校長・団長あいさつ)
	13:45～16:30	語学研修
	16:30～19:30	野外炊飯
	(17:00～)	(青年の家主催「代表者会議」「夕べのつどい」)
	19:30～20:30	キャンプファイヤー用スタンプ練習
	20:30～21:30	入浴
22:00～	就寝準備・消灯	
第 2 日	6:30	起床
	7:10	(青年の家主催「朝のつどい」)
	7:30～7:50	清掃
	7:50～8:40	朝食
	8:50～12:00	語学研修
	12:00～13:00	昼食
	13:10～17:00	語学研修
	17:30～	夕食
	19:00～20:30	キャンプファイヤー
	20:30～21:30	入浴
22:00～	就寝準備・消灯	
第 3 日	6:15	起床
	7:30～7:50	清掃
	7:50～8:40	朝食
	8:50～11:30	語学研修
	11:30	閉校式
	12:00	昼食・宿泊場所点検・青年の家主催「終わりのつどい」
	13:30	青年の家出発(貸切バス) 切串港より乗船
	14:45	広島港到着 解散

舟入高校主催 広島市立高校生英語セミナー

1. 目的

広島市立高等学校に在籍する高校生を対象に、広島市英語指導助手や他の高校生との交流を通して、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度及び実践的コミュニケーション能力を培う。

2. 主催 広島市立舟入高等学校 後援 広島市教育委員会

3. 日程 平成 16 年 8 月 11 日(水)～8 月 12 日(木)

Day1 August 11th	Activity	Day 2 August 12th	Activity
8:30	Students and AET's arrive at Funairi	8:30	Students and AET's arrive at Funairi
9:00	Opening Ceremony	9:00-10:45	Country Bazaar
9:15	Divide into groups and self introductions	10:55-11:45	Workshop 6
9:30-10:20	Workshop 1	11:50-12:30	Game
10:30-11:20	Workshop 2	12:30 - 1:30	Lunch
11:30-12:20	Workshop 3	1:30 - 3:00	Commercials and Story Telling workshop presentations
12:20 - 1:20	Lunch	3:00	Closing Ceremony Presentation of certificates and photographs
1:30 - 2:20	Workshop 4	3:30	End.
2:30 - 3:20	Workshop 5		
3:30	Instructions for day 2, finish.		

4. 場所 広島市立舟入高等学校

5. 参加者 広島市英語指導助手 15 名
 広島市立舟入高等学校 英語担当教員 2 名
 広島市教育委員会学校教育課指導課指導主事 2 名
 広島市立高等学校に在籍する高校生 40 名(うち、広島市立舟入高等学校生徒 32 名)

6. 研修内容

各班 10 名程度のグループに分かれ、ローテーションを組んで、ALT が設置しているワークショップに参加した。例えば、AET たちが各自の国を紹介するブースを設置し、生徒達が各国をめぐって、それぞれのブースで英語での質問をしたり、それぞれの国の特産品にふれたり、伝統的なダンスを習ったり、といった様々な活動を行った。

舟入高等学校主催 広島市立高校生英語セミナー(受講者アンケート)

学校別参加人数 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>広島商業</td><td>6</td></tr> <tr><td>広島工業</td><td>2</td></tr> <tr><td>舟入</td><td>32</td></tr> <tr><td>総計</td><td>40</td></tr> </table>			広島商業	6	広島工業	2	舟入	32	総計	40	肯定度	百分率						頻 度					
			広島商業	6																			
広島工業	2																						
舟入	32																						
総計	40																						
「そう思う」 + 「ややそう思う」	そう思う	ややそう 思う	ふつう	あまりそ う思わな い	そう 思わな い	そう思う	ややそう 思う	ふつう	あまりそ う思わな い	そう 思わな い	合計												
1	楽しかった	楽しさ	100%	88%	13%	0%	0%	0%	35	5	0	0	0	40									
2	為になった	有用性	100%	83%	18%	0%	0%	0%	33	7	0	0	0	40									
3	【動機づけ】 「もっと～を身につけ たくなった」	聞くの動機	95%	75%	20%	5%	0%	0%	30	8	2	0	0	40									
4		話すの動機	93%	85%	8%	3%	5%	0%	34	3	1	2	0	40									
5		読むの動機	78%	55%	23%	13%	8%	3%	22	9	5	3	1	40									
6		書くの動機	75%	53%	23%	15%	8%	3%	21	9	6	3	1	40									
7		言語の動機	95%	68%	28%	5%	0%	0%	27	11	2	0	0	40									
8		知識の動機	93%	68%	25%	8%	0%	0%	27	10	3	0	0	40									
9	【自己評価】 「セミナーで～の 力がついたと思う」	聞くの向上	90%	58%	33%	10%	0%	0%	23	13	4	0	0	40									
10		話すの向上	80%	48%	33%	20%	0%	0%	19	13	8	0	0	40									
11		読むの向上	55%	23%	33%	40%	3%	3%	9	13	16	1	1	40									
12		書くの向上	53%	23%	30%	30%	13%	5%	9	12	12	5	2	40									
13		言語の向上	58%	25%	33%	43%	0%	0%	10	13	17	0	0	40									
14		知識の向上	93%	58%	35%	8%	0%	0%	23	14	3	0	0	40									

「印象」に残ったこと(一部のみ掲載)

- ・分からないところはゆっくりしゃべってくれたり、身振り手振りで教えてくれたので聞きやすかったし分かりやすかった。
- ・ダンスやアフレコ・作詞やtripとても楽しくできて、前よりポジティブになった。
- 初めは全く分からなくて不安だったけど、先生など優しくしてくれて楽しめた。2日目は特に楽しくて終わるのがさみしかった。1年の時から参加したら良かった。
- 外国に人たちとこんなに会話したことがなかったので、それぞれの国のこととかが前より分かった。ダンスをしたり映画の吹き替えをしたり、歌を作ったり、普段できないことがたくさんできたので良かった。とても楽しかった。
- ・英語がちゃんと通じなくても、ジェスチャーなどで分かり合えることがわかりました!
- ・いろんな国の方と話したこと。全部英語でたいへんだったけど、楽しかったです。特にバザーが好きでした。
- Voice Overは想像したものを英語でいかに伝えるのか、ストーリー性も頭に入れながらするのが大変だったがとても楽しむことができた。

第8回舟入高校英語スピーチコンテスト

1. 目的

自身の意見を表現し伝達する能力を身につけることは、国際化時代・情報化時代と言われる現代社会においてその重要性は益々増加していると言われる。本校では生徒の英語表現能力を伸長させるとともに、社会問題に興味関心をもってもらいたいという願いから、毎年秋に校内英語スピーチコンテストを開催している。また、昨年度からは市内中学生にも発表の場を提供し、好評を博している。

- 2. 日時 平成17(2005)年11月5日(土) 9時30分～12時30分
- 3. 会場 広島市立舟入高等学校 国際コミュニケーションホール
- 4. 日程 以下プログラムを掲載

第8回舟入高校英語スピーチコンテスト

The 8th Annual English Speech Contest at Funairi High School

日時 2005年11月5日(土) 9時30分～12時30分
 会場 広島市立舟入高等学校 国際コミュニケーションホール

<p>日程 9時30分</p> <p>9時40分</p> <p>10時40分</p> <p>12時00分</p> <p>12時20分</p>	<p>開会行事 Opening Ceremony 校長あいさつ Principal's Greeting 審査委員の紹介 Introducing Judges 審査基準の説明 Explanation on Judging Criteria</p> <p>中学生のスピーチ開始 J.H.Students' Speeches Start</p> <p>休憩 Intermission</p> <p>高校生のスピーチ開始 S.H.Students' Speeches Start</p> <p>休憩(審査集計) Intermission</p> <p>ゲストスピーチ Guest Speech</p> <p>閉会行事 Closing Ceremony 総評(審査委員) Comments by ALTs 審査結果発表 Announcement of the Results 最優秀賞 1st Prize 優秀賞 2nd Prize 優良賞 3rd Prize 特別賞 Special Prize 記念撮影 Commemorative Photography</p>
--	--

ゲストスピーチ Guest Speaker
 3年生 秋本 舞(AKIMOTO Mai)

審査委員 Judges
 中学生担当 : Craig Nevitt, Phil Olsen, 近藤あゆみ、佐藤将記、住田恒三
 高校生担当 : Callie Olsen, Jacqueline Lin, 西 巖弘

司会 Masters of Ceremonies(2年生)
 内田 瑠美(UCHIDA Rumi) 川本 理紗(KAWAMOTO Risa)
 木村 佳那子(KIMURA Kanako) 平原 真帆(HIRABARA Maho)

第8回舟入高校英語スピーチコンテスト

中学生発表者一覧(発表順) List of J.H Speakers

	参加校	学年	タイトル
1	古田中学校	3年生	My Dream
2	温品中学校	3年生	Our School
		3年生	
3	廿日市市立七尾中学校	3年生	My Favorite Musician
4	呉市立昭和北	3年生	My Memory
5	早稲田中学校	3年生	The First Chance to Study English
6	仁保中学校	3年生	My Native Country
7	庚午中学校	3年生	The Power of Music
8	庚午中学校	2年生	The <i>Jizos</i> and the Hat Maker
9	宇品中学校	3年生	Studying English for Me
10	戸坂中学校	3年生	Something for Joey
11	庚午中学校	3年生	My Favorite Book: Harry Potter
12	府中市立上下中学校	3年生	Orange Cake Experience
13	早稲田中学校	3年生	About Propriety
14	大洲中学校	3年生	Children's Peace Monument
15	戸坂中学校	3年生	Another Giant Leap
16	廿日市市立七尾中学校	3年生	Club Activity
17	中広中学校	3年生	With Love
18	廿日市市立七尾中学校	3年生	The Fastest Woman in the World

高校生スピーチ要旨

	学年	タイトル	要旨
1	1	My Hometown Shiwa	私の故郷、「志和」について紹介します。志和の良いところをくまなく紹介し、志和に寄せる思いを聞いて下さい。
2	1	My Dream	自分は日本人であることに幸せを感じている。なぜなら日本には street children や飢え死にする子ども達がいなかった。しかし発展途上国の子ども達は違う。それを改善するために外交官になりたい。
3	2	What I Learned From My Best Friend	私には数名仲の良い友達がありました。その中の一人、幼稚園時代からの姉妹のような女の子からこの夏、ある大切なことを学びました。皆さんはどう考えますか。
4	1	Japanese Culture	今日、多くの若者が外国に影響され過ぎて日本の伝統文化のことを考えていない。私はすばらしい日本文化を新しい目で見直すべきだと思います。
5	2	The Night of Christmas Eve	私はミステリアスな感覚を持つ人間です。他人はそれを信じてくれません。私の不思議な体験を皆さんにお話しし、私のスーパーナチュラルな感覚を理解して欲しい。
6	1	The World Heritage Site	皆さんは日本にある世界遺産をいくつ知っていますか？これらは日本だけでなく世界の宝物です。そこで、私は世界遺産の大切さについてスピーチします。
7	1	The Importance of Talking	皆さんは今までに外国人と話したことがありますか？ 私はこの夏、韓国に行ってきました。そこで沢山のひとたちと出会い、いろいろなことを学びました。
8	2	My Loving-Pet Rokki	私たち家族みんなが愛したうさぎのペット、ロッキーについて皆さんにお話しします。
9	1	My Homestay Bridge	私の家に homestay したアメリカ人のサラから「友情」と「JICA の一員になりたいという夢」を聞いた。人間はなぜ互いに殺し合うのか、なぜ人間を恐れなければならないのか。これらの疑問とともに世界平和を訴える。
10	2	Haven't You Forgotten Something Important...?	最近「韓流ブーム」といわれるほど、韓国が身近な存在になってきました。しかし、日本人として何か重要なことを忘れていませんか？
11	1	On the 60 th Anniversary of the Atomic Bomb	被爆60年を迎え、私が体験したことをもとに現在の広島を見て思う事、そして私たちがすべきことを発表します。
12	1	Family	「家族」はどんな時も支え合う、誰にとっても大切な存在です。私は家族がずっと見守ってくれたから今の私があります。本当にありがとう。
13	1	For Increasing Green Consumer Increasing Green Consumers through the Railway	広島市では今年初めて「ノーマイカーデー」が実施されました。全国で行なわれているこのような運動によって環境に優しい鉄道が注目されます。鉄道利用によるグリーン消費の増加がもたらされるのです。
14	1	World Peace	「アメリカの高校生」とのホームステイプログラムを通して世界平和の実現のためにすべきだと考えたことをスピーチします。
15	1	Robots	ロボット科学はめざましい進歩をとげた。愛知博には自分で勝手に動くものや案内するのがいた。それぞれ人間に近い動作をしていた。将来、鉄腕アトムのような心を持ったロボットが登場するかもしれない。
16	1	My Dream	私はまだはっきりとした職業は決めていない。しかし、国際的な職業に就きたいと思っている。現在の私は communication をとるのに重要な話す能力に自信がないが将来の目標のためにも頑張ろうと思う。
17	1	Names	あなたは自分の名前が好きですか？もし好きでないのなら私のスピーチをしっかりと聞いて下さい。名前のすばらしさを再確認出来るはずです。

SELHi特別講演会

目的	英語教育の各分野における著名な講師の講演に参加することを通して、英語を「書くこと」・「話すこと」に対する積極性を高め、英語によるコミュニケーション及び英語の学習に対する前向きな態度を養う。
日時	平成17年10月21日(金)(100分)
場所	広島市立舟入高等学校 国際コミュニケーションホール
講師	青木 信之 先生 (広島市立大学 副学長 国際学部 教授)
演題	『英語ライティングが上達するためには何が大切か』
対象	国際コミュニケーションコース1～3年生

講演の要旨

- (1) 効果的なコミュニケーションを目指したライティング
なぜ英作文が苦手か。
語彙が苦手
文法が苦手 完璧になる日はこない
ではどうすればよいか
- (2) 文章を書くってなんだろう？
(1) 周りの環境
(2) トピックは？ なにについて書くか
「今までもっとも嬉しかった瞬間」
「小学生は携帯でんわを持っていいか。」
「今度生まれるならどっち？」
「中国の経済発展について」
トピックについて準備すべきことは全く違う。書く行為はトピックによって変わる
同じアプローチではだめなのだ
- (3) 読み手は？ 誰に向けて書くか。
「先生」
「クラスメート」
「友達」
「全国の高校生」
「一般の人たち」
書き手によってもアプローチを変えよう
- (4) 読み返しの影響
誰もが書きながら読み返す でもうまい読み返しとそうでない読み返しがある
上手な人の読み返し効果 話がうまくつながっている、分かりやすい。
下手な人の読み返し効果 独りよがり。
- (5) 持っている知識
・トピックについて知っていること
その時のことを思い出してみよう。
一般的にはなんていわれている？ 自分はどう思う？

・読み手について知っていること
先生:先生ならわかってくれる。どうせ宿題だ。
クラスメート:あの時一緒にいた。このことは知っているはず。
何を共通理解とするか:どこまで事例を深めるか

・書き手について知っていること
とにかく作文なんか早く終わらそう！
思いつくことをどんどん書いて、あとで整理しよう

まずちゃんとあらすじを書かないと自分は何にもかけない
読み手のことを考えないといい文章は書けない！

(3) 実際に書く行為

(1) 計画

アイデアを出す[ここは誰でもできる]

- ・ブレインストーミング(連想法)
- ・ 「外部記憶装置」を使う(メモなど)

目的を考える

- ・ 事実を伝える？人を楽しませる？誰が読む？

流れを考える[ここで差がつく]

- ・ 主張を最初に持ってくるか？謎解きのような面白さを出すか。
- ・ 流れに関係ない内容は、いいアイデアでも捨てるのがうまい書き手
- ・ 流れを考えることでアイデアは更に深く思い出される

(2) 文章化

母語で書くのと外国語では大きく違うぞ！

語彙: 「なまず」はなんて言う？

文法: 「そうするくらいならこうしたほうがましだ」って英語でなんていうの。

頭にかかる負担: 「言いたいことを考えるのと、それを英語でどう言うのかを考えるなんて、同時に2つも考えられない。」
この表現は英語で何ていうの。

(4) 大学生の実験結果を報告

英作文するときに、頭に浮かんだことをすべて口にするよう指示。レコーディングして分析。

適当な英語が浮かばないときでも、上手な人は？

別の言葉でいい代える

文章の構造を変えてみる ・主語を変えたら...1彼の私を見る目つき2彼は3私は

英語の中だけではなく、英語と日本語の間にも言い換えのループを作る。

- ・英語言い換えのループ
- ・日本語言い換えのループ
- ・発音変換のループ

知っているか知らないか、だけではなく手持ちの辞書を用いて工夫

ここで exercise

1) 彼は収賄の容疑であげられた。

彼は汚いお金を受け取り、警察につかまった。He took dirty money and was caught by the police.

警察は彼が違法なお金を受け取ったと考え、つかまえた。The police believed that he accepted illegal money, and caught him.

彼は警察に逮捕された。なぜなら汚いお金を受け取ったと思われるからだ。

He was arrested by the police because he was

2) 私の提案は頭から否定された。

彼らの私の提案に完全にノーと言った。They completely said “no” to my suggestion.

私の考えは最初から否定された。

3) その話し合いの結果は火を見るより明らかだ。

誰でも話し合いの結果を予測できる。Everyone can predict the result of the discussion.

話し合いのする前から、話し合いの結果を予測できる。

(5) まとめ

(1) 見直し

「書くこと」は「見直すこと」

文章の上手な人とそうでない人の分岐点

何のために見直すか

- ・ 目的どおりの文章になっている？
- ・ 人が読んでわかる？
- ・ 自分の伝えたいことが伝わっている？

何を見直すか(清書ではない)

話の流れは大丈夫？

別々のルートで目的別に見直す

お医者さんがするように、どこが悪いかが診断してから治療しようとする(粘る)

・どの部分が手直しか分かった後で

<まとめ>

書く前にプランを立てる

英語だけにとらわれず、自分の言葉を最大限に生かし、

文章の目的や読み手の視点を考えながら、文章の見直しをする。

もう一つ大事なこと、先生から指導を受けたら...

先生の「血と汗の結晶」赤ペンの指導を受けたら

ただ受けるだけでは残念ながら効果は薄い

ほとんど読んでいない

あれ、前に指摘されたことと違うぞ！自分からのアプローチも必要

誤りにはいろんなものがある

global error を指摘されたら：英語・日本語に限らず作文力を伸ばすチャンス

Local error を指摘されたら：英語力を伸ばすチャンス・書き直して

さらにかけるようになるようには

実際のコミュニケーションに使ってみよう

インターネットにはキーパルがたくさん！

英語を母語としないもの同士で気楽に。

(6) 質疑応答

・国際学部と外国語学部の違いは何か？

例えば、地域研究...アラビア語が必要となったりする

・受験の英作文にも通用するか。

もちろん通用する。知っているか、知らないかだけではない。読み替えなど

・日本語を知らなかったら？

新聞読むしかない

・市立大学に入るには？

自分の視点を持っていること

「その学生は自分の意見をもっているか。まとめられるか。」

・どのようなトレーニングが効果的か？

「まあいいか。」ではなく、普段から他の言い方は何かという発想で訓練すると必ず役に立つ。

・即効性のある対策は何か？

文章を丸ごと暗記。(誰もが経験している)

例えば、高校1年生の教科書を暗記していれば、英作文にはほとんど対応できる。

・青木先生は英作文が好きですか。

思ったことが書けたら楽しい。

表現については、インターネットでいくらでも調べられるから表現に対するイメージは変わってきた。

大学院に入った時から英作文に興味を持った。

その他にはコンピュータの英語教育に携わっている。

仮説)時間をかけて丁寧に頑張っている学生の方が...しかし、そうではない。

間違っている時はちゃんと見直ししている生徒の方が...しかし、そうでもない。

では、何が伸ばすのか？

= 集中力。練習のための練習では伸びない。

練習を本番と思ってやっている人は伸びている。

あとから答え(スクリプト)を見ることができる、と思ってやっているうちは力になっていない。

「SELHi特別授業」についてのアンケート結果

	肯定率 「そう思う」 + 「ややそう思う」	百分率					頻度					合計
		そう思う	ややそう 思う	ふつう	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう思う	ややそう 思う	ふつう	あまりそう 思わない	そう 思わない	
1) 特別授業は、楽しかった。	91%	64%	27%	9%	0%	0%	72	30	10	0	0	112
2) 特別授業は、ためになった。	91%	75%	16%	7%	2%	0%	84	18	8	2	0	112
3) 英語をもっとたくさん 「聞いてみたい」と思うようになった。	54%	32%	22%	38%	4%	3%	36	25	43	5	3	112
4) 英語をもっとたくさん 「話してみたい」と思うようになった。	57%	32%	25%	37%	4%	2%	36	28	41	5	2	112
5) 英語をもっとたくさん 「読んでみたい」と思うようになった。	57%	26%	31%	38%	4%	0%	29	35	43	5	0	112
6) 英語をもっとたくさん 「書いてみたい」と思うようになった。	87%	48%	38%	13%	0%	0%	54	43	15	0	0	112
7) 英語の「語彙・表現・文法」を もっと身につけたいと思うようになった。	81%	53%	29%	17%	1%	1%	59	32	19	1	1	112
8) 「異文化や国際関係の知識」を もっと身につけたいと思うようになった。	66%	32%	34%	29%	2%	4%	36	38	32	2	4	112
9) 特別授業の前よりも、 英語を「聞く力がついた」と思う。	6%	2%	4%	58%	13%	23%	2	5	65	14	26	112
10) 特別授業の前よりも、 英語を「話す力がついた」と思う。	10%	4%	6%	57%	13%	21%	4	7	64	14	23	112
11) 特別授業の前よりも、 英語を「読む力がついた」と思う。	18%	5%	13%	48%	14%	20%	6	14	54	16	22	112
12) 特別授業の前よりも、 英語を「書く力がついた」と思う。	66%	22%	44%	27%	4%	4%	25	49	30	4	4	112
13) 特別授業の前よりも、 英語の「語彙・表現・文法」が身についたと思う。	38%	10%	29%	38%	13%	12%	11	32	42	14	13	112
14) 特別授業の前よりも、 「異文化や国際関係の知識」が身についたと思う。	20%	5%	14%	47%	15%	18%	6	16	53	17	20	112

- ・「英語で文章を書くとき、単語などについて考えるより、まず日本語を変えてみる」というのは、考えてみると想だけ、言われるまで気がつかなかった。
- ・「発想の転換」をこれからの英語学習に活かしていきたい。
- ・「まっ、いいか」で済ませてはいけない。言い換え、発想を大切に。
- ・「見直し」事の大切さを学んだ。英作が上手な人は見直しを2回に分けてしているということや、時には全て書き直してみると言うことなどが、自分の「見直し」と違うところだったのでとても印象に残った。
- ・2者の比較が楽しくて分かりやすかった。
- ・アイデアを出すときに、短冊にいて並べ換えるという方法。
- ・青木先生の話聞いていて今まで横山先生に言われたことが沢山あった。改めて先生のすごさを感じた。青木先生の半紙方は分かりやすく、聞いていて飽きることがなかった。このことは受験にも活かされると思った。
- ・頭が堅い方なので、「火を見るより」等の表現の仕方が参考になった。
- ・言い換える例で日本文意は理解することも難しいようなことばばかりあったけど、ちょっと考えただけでいろいろ表現に変えることができるのだなあと思った。
- ・言い換えをしてでも英作に挑戦しようとする事の大切さ。
- ・今までも先生に、その日本語のまま考えないで、自分の書ける英語に直して書くようにするように教えられてきたが、今日のように、例を挙げてもらうと、分かりやすく、新しい発見もあり、とても面白かった。
- ・意味がわからない単語などは、自分がわかる単語で言い換えて書けば正確な英語でなくても近いことが書けるということ。
- ・色々な言い方で言えば、言いたいことは伝わる。
- ・うまい人とそうでない人を比較して、その違いがはっきり分かった。

平成17年度 広島市立舟入高等学校
スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究開発関係者

運営指導組織

氏名	所属	職	指導領域・分野
清水 正剛	広島市教育委員会指導第二課	指導第二課長	研究全体に対する指導監督
青木 信之	広島市立大学国際学部	副学長・教授	研究全体とライティングの指導助言
渡辺 智恵	広島市立大学国際学部	助教授	スピーキングに関する指導助言
能登原 祥之	比治山大学現代文化学部	助教授	シラバス化に関する指導助言
田川 修司	広島市立舟入高等学校	校長	高大の連携と校内の研究活動の運営管理

研究組織

氏名	所属	職	担当分担
宍戸 千代香	広島市教育委員会指導第二課	指導主事	研究活動全体に関する指導監督
田川 修司	広島市立舟入高等学校	校長	校内の研究活動の指導監督
小林 幸治	〃	教頭	校内の研究活動の指導監督
幾田 擁明	〃	〃	校内の研究活動の指導監督
桂 時彦	〃	事務長	会計監査
佐々木 百合子	〃	教諭	『英語』・WSA テスト
福崎 穰司	〃	〃	『ライティング』・WSA テスト
住田 恒三	〃	〃	『英語』・実用英語技能検定
為西 正和	〃	〃	『時事英語』・会計主任・GTEC
栗栖 五代	〃	〃	『異文化理解』・資料編集
栗原 誠	〃	〃	『総合英語』・GTEC
横山 直子	〃	〃	『英語理解』・WSA テスト
大鴻 淳二	〃	〃	『総合英語』・WSA テスト
佐藤 将記	〃	〃	『英語表現』・実用英語技能検定
堂鼻 康晴	〃	〃	『通訳演習』・SELHi 特別授業
西 巖弘	〃	〃	『コミュニケーション』・研究主任・計画書 および報告書の執筆
川本 由美	〃	〃	『OC』・WSA テスト
近藤 あゆみ	〃	〃	『英語表現』・WSA テスト
クレイグ・ネヴィット	〃	外国人指導助手	『コミュニケーション』・WSA テスト
ナタリー・ヤンチャムナム	〃	〃	『英語表現』・WSA テスト

SELHi研究開発推進委員会

氏名	職・担当	氏名	職・担当
田川 修司	校長	住田 恒三	国際部長
小林 幸治	教頭	為西 正和	図書情報部長
幾田 擁明	教頭	佐藤 将記	外国語（英語）科
桂 時彦	事務長	横山 直子	外国語（英語）科
中島 光博	教務主任・委員長	堂鼻 康晴	外国語（英語）科
真鍋 光	教育研究部長・副委員長	西 巖弘	外国語（英語）科・研究主任
小林 俊文	進路指導主事		

ワード・カウンター

年 組

番 名前

1・2分用

たて型

WPM TOPIC

1	26	51	76	101	126	151	176	201
2	27	52	77	102	127	152	177	202
3	28	53	78	103	128	153	178	203
4	29	54	79	104	129	154	179	204
5	30	55	80	105	130	155	180	205
6	31	56	81	106	131	156	181	206
7	32	57	82	107	132	157	182	207
8	33	58	83	108	133	158	183	208
9	34	59	84	109	134	159	184	209
10	35	60	85	110	135	160	185	210
11	36	61	86	111	136	161	186	211
12	37	62	87	112	137	162	187	212
13	38	63	88	113	138	163	188	213
14	39	64	89	114	139	164	189	214
15	40	65	90	115	140	165	190	215
16	41	66	91	116	141	166	191	216
17	42	67	92	117	142	167	192	217
18	43	68	93	118	143	168	193	218
19	44	69	94	119	144	169	194	219
20	45	70	95	120	145	170	195	220
21	46	71	96	121	146	171	196	221
22	47	72	97	122	147	172	197	222
23	48	73	98	123	148	173	198	223
24	49	74	99	124	149	174	199	224
25	50	75	100	125	150	175	200	225

1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

目標: 1分100語

cNISHI Itsuhiro